

令和3年度（令和2年度対象）
南あわじ市の教育 点検・評価
報 告 書



令和3年8月

南 あ わ じ 市 教 育 委 員 会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

も く じ

はじめに	1
点検・評価の概要	2
体系表	3
点検・評価結果	5
基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進	6
(1) 「確かな学力」の育成	7
(2) 「豊かな心」の育成	11
(3) 「健やかな体」の育成	14
(4) 特別支援教育の推進	17
(5) キャリア教育の推進	19
(6) 幼児期における教育の充実	23
(7) 南あわじ市の防災教育の推進	26
基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築	29
(1) 教職員の資質・能力の向上	30
(2) 学校の組織力の強化	33
(3) 安全・安心な教育環境	35
(4) 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	37
(5) 人権文化をすすめるまちづくり	41
基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生	44
(1) 主体的に生きるための学びと場の充実	45
(2) 伝統文化（芸術）の伝承と発展	51
(3) スポーツに親しむ環境づくり	55
評価委員の意見	57

はじめに

近年、教育に対するニーズの変化や、課題が多様化・高度化・複雑化する中で、教育が果たすべき役割が大きく変化しています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大という前例のない状況下において、本市及び本組合の教育行政も大きな転換期となった一年でした。

昨年度は、4月当初より、市内小中学校において約2カ月にわたる一斉休校となり、再開後も学校行事等の中止や縮小等、異例の対応が必要となりました。社会体育施設においても、休業や閉館時間の短縮運営を実施し、各種事業及びイベントの実施方法の見直しが相次ぎました。

未曾有の事態に対応するため、各学校においては、授業や学校行事を工夫し、家庭と連携して児童生徒の心のケア等に取り組みました。各種事業等においても、感染防止対策を講じながら、可能な限り事業を実施してまいりました。

このたびは、そのような状況下での一年間の報告書となっております。

教育委員会においては、令和2年度から5か年計画として「第3期南あわじ市教育振興基本計画」を策定し、令和2年度は、本計画に基づき「南あわじ市の教育方針」を定め、「学ぶ楽しさ日本一」をテーマに、子ども達が「学ぶ楽しさ」をあふれるほど感じたり、追及できる学校、家庭、地域を推進してまいりました。

「学ぶ楽しさ日本一」を実現する取組として、「ほめること」を大切にすることで「自己肯定感」を高めることを目指しております。

さらに、「読解力」を核にしなが、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力、創造力、やり抜く力など様々な資質や能力を向上させ、「なりたい自分になれる」ように、サブテーマである「夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり」を進めるため、それぞれ具体的な諸事業を推進してまいりました。

これらの諸事業を適切に執行するには、各事業が効率的に実施されているか、有効的に行われているかなど、随時、点検評価をしていくことが必要であると考えます。加えて、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条には、教育委員会行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することと規定されております。

こうしたことから、教育委員会では、課題や取組の方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民のみなさんへ説明責任を果たすため、「南あわじ市の教育方針」に基づき、令和2年度に実施した主な事業について点検評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

令和2年度の点検・評価にあたっては、評価内容の客観性を確保するため、また、コロナ禍における事業の実施等に対する成果と課題を明らかにするため、学識経験者のみなさまのご意見をいただいております。今後の教育行政に反映させていきたいと考えております。

今後も、教育委員会では、よりより教育の実現に向けて努力してまいりたいと存じますので、みなさまの一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

南あわじ市教育委員会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

点検・評価の概要

点検・評価の対象

「第3期南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）」の基本理念に基づいて令和2年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、80の主な取組を点検・評価の対象としました。（対象事業一覧は次のページに掲載）

点検・評価の方法

「第3次南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）」及び「令和2年度南あわじ市の教育方針」を基に、教育委員会で自己点検評価資料をまとめました。

教育に関する事務の点検及び評価委員会を開催し、学識経験者3名の方を評価委員としてお招きし、自己点検評価資料等に対してご意見、ご助言をいただきました。

委員会の内容をとりまとめ、最後に「評価委員の意見」を掲載した報告書を作成しました。

報告書の公表

報告書は、市議会及び組合議会へ提出すると共に、関係機関及び市内小中学校への配付、ホームページへの掲載を行いました。

第3期南あわじ市教育振興基本計画(令和2年度～令和6年度)
めざす教育の姿 体系表

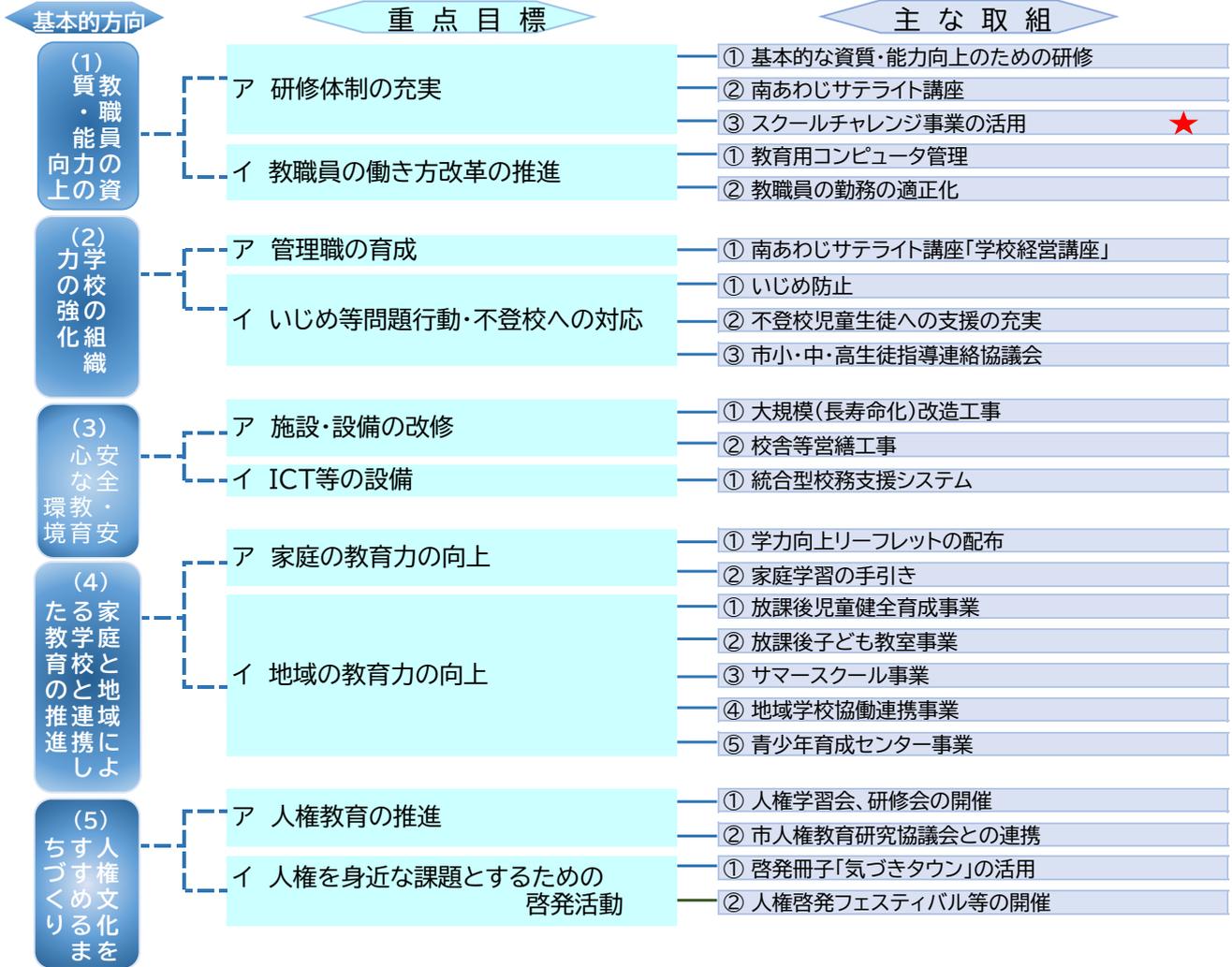
学ぶ楽しさ日本一
～ 夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり ～

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進
基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築
基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

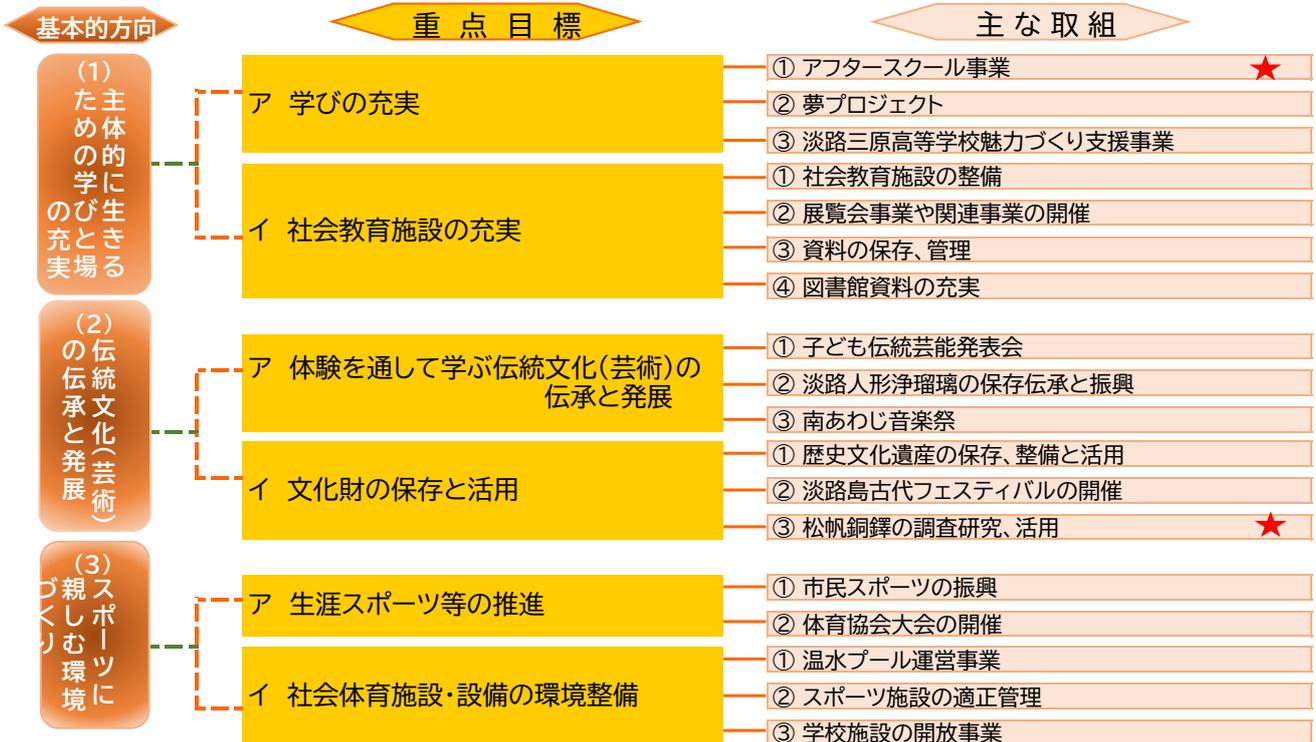
基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向	重点目標	主な取組
(1) 「確かな学力」の育成	ア 学力向上の推進	① 「読解力」の向上 ② 基礎基本の徹底 ③ コアカリキュラム ★ ④ 読書習慣づくり
	イ 国際理解を深める教育の推進	① ALT・STを活用した外国語の授業 ② 「COOL AWAJI」の活用
	ウ 情報活用能力の育成	① プログラミング教育
(2) 「豊かな心」の育成	ア 道徳教育・人権教育の推進	① 道徳教育と人権教育研究プロジェクト ② 兵庫版道徳教育副読本の活用
	イ ふるさと意識を醸成する教育の推進	① 副読本「ふるさと淡路島」「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用
	ウ 兵庫型「体験教育」の推進	① 環境体験学習 ② 自然学校
(3) 「健やかな体」の育成	ア 体力・運動能力向上の推進	① 運動能力テスト ② 体力アップサポート事業
	イ 食育の推進	① 食育推進事業 ② 食育チャレンジ
	ウ 健康教育・安全教育の推進	① 避難訓練 ② 着衣水泳
(4) 特別支援教育の推進	ア 連続性のある多様な学びの充実(縦の連携)	① 個別の教育支援計画 ② 授業のユニバーサルデザイン化 ③ 中高連携シートの活用
	イ 一貫性のある支援体制の構築(横の連携)	① 関係機関との連携 ② あわじ教育相談
(5) 教職員のキャリアの推進	ア 体系的・系統的なキャリア教育の推進	① キャリアノート等の活用 ② 幼こ保・小・中・高の連携 ③ 小中一貫教育
	イ 社会に触れる機会の充実	① トライやる・ウィーク ② 夢プロジェクト
(6) 幼児期における教育の充実	ア 幼児期における教育の質の向上	① 遊びから学びに繋がる体験活動 ② 本との出会いの場の提供 ③ 職員の研修
	イ 幼児期と児童期の円滑な接続	① 幼こ保小連絡協議会 ② 交流活動の充実 ③ 育児力の強化
(7) 南あわじ市の防災推進	ア 防災教育の充実	① 防災ジュニアリーダー養成事業 ★ ② 防災出前授業 ③ 自然学校「防災学習」
	イ 学校防災体制の充実	① 学校防災マニュアルの作成 ② 避難所運営部会

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築



基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生



★ : 特色ある取組

点検・評価結果

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

対象事業 39項目

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

対象事業 23項目

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

対象事業 18項目

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向1 「確かな学力」の育成

基本的方向2 「豊かな心」の育成

基本的方向3 「健やかな体」の育成

基本的方向4 特別支援教育の推進

基本的方向5 キャリア教育の推進

基本的方向6 幼児期における教育の充実

基本的方向7 南あわじ市の防災教育の推進

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向1 「確かな学力」の育成

基本的方向1

「確かな学力」の育成

【重点目標】	【主な取組】
ア 学力向上の推進	① 「読解力」の向上 ② 基礎基本の徹底 ③ コアカリキュラム ④ 読書習慣づくり
イ 国際理解を深める教育の推進	① ALT・STを活用した外国語の授業 ② 「COOL AWAJ」の活用
ウ 情報活用能力の育成	① プログラミング教育

「読解力」の向上

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	新学習指導要領を基に、教科書を読み解いたり、言葉の意味の違いに気づいたり、図・グラフ等から関係性を読み解いたりすることで「読解力」の向上に繋げる。また、読書活動と連携し「読解力」の基礎となる読書の習慣化を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 児童生徒の、思考力・判断力・表現力等を把握し、「ことばの力(言語に関する能力)」の育成を図る活動の在り方について共通理解した。その上で、各教科等において、「記録」「要約」「説明」「論述」等の言語活動を充実させた授業改善が図られてきている。特に、全国学力学習状況調査の結果を踏まえた課題克服研究として国語科で取り組む学校もあった。また、百科事典を活用した「ことばの力」の育成にも取り組み、目的と評価の分析において児童生徒自身が要約したり、説明する力がついてきたとの記述が多くみられた。</p> <p>【課題】 教師自身が「読解力」を理解し、目的意識を持ち、授業を組み立てる必要がある。育みたい資質能力を基にした授業改善の在り方を教職員で共有することが難しい。そこで、指導目標に則した評価方法を明確にし、指導方法の工夫改善に取り組むなど、指導と評価の一体化を図る必要がある。</p>

基礎基本の徹底

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	学習の基礎基本の向上を目指し、授業外の学習タイムを設け各校で取り組んでいる。がんばり学びタイムでは、小中学校14校において、地域人材を活用し、授業中・放課後の学力向上方策に取り組んでいる。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 市内14小中学校で実施した。各校とも、児童生徒の実態に合わせて対象学年や日数を決定し実施した。コロナ禍で年度途中にも事業が拡大され、がんばり学びタイムは授業中にも学習支援ができるようになり、多くの学校で支援体制の充実が図れた。また、放課後では基礎学力定着を目指して漢字や計算等の練習を中心に行うだけでなく、発展的な問題を用意し、個々の到達度に応じて個別指導を行うなど方法や場の工夫をするようになってきた。</p> <p>【課題】 希望者が多い場合は、個々のつまずきに応じた個別指導をするための学習教材の準備に時間がかかる。また、児童生徒理解のための担任と講師の打ち合わせ時間をとるためにも、学校の実態に合わせた運営上の工夫が必要である。</p>

コアカリキュラム

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>南あわじ市コアカリキュラムは、淡路人形浄瑠璃を題材に、育成すべき資質・能力の明確化と小中学校9年間の達成レベルやルーブリック評価を設定した授業設計となっている。（各学年10時間以内） 設計に2年をかけ、実施検証が2年目となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全校において小1から中2までカリキュラムの実施、振り返りシートと成果物を集めた。 ② 検証(小2、4、6、中2)として阿万小学校・南淡中学校で公開授業をした。 ③ 来年度検証学年の中3のための動画編集研修をした。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 全校から教師の振り返りシートを集め分析したところ、コアカリキュラム担当以外の若手教師に育成すべき資質向上についての記述が見られるようになった。これはコアカリキュラムの本質が伝わり、広まってきていると言える。ブラッシュアップ研修では3年目のベテランコアカリキュラム担当を中心に、授業検証・振り返りシートをもとにカリキュラム改訂もスムーズにできた。中3の準備研修により、中2からタブレットを使用した取組が行えた。</p> <p>【課題】 ルーブリック評価において、めざすべき児童生徒の姿の具体的なイメージが共有しにくいので評価の難しさがあった。コアカリキュラムは、9年間の学習の積み上げなので、毎年児童生徒の実情に合わせて、少しずつカリキュラムや評価等の微調整が必要になってくる。</p>



読書習慣づくり

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>各学校において、「朝の読書」「すき間読書」「読み聞かせ」「読書カードの活用」等、工夫した取組を行った。また、すぐに本を手にとれるよう学級文庫を充実させ、学校図書館に新刊を意識的に入れる等、環境整備を図った。 また、学校司書を2人配置した。（福良小学校、南淡中学校、志知小学校、西淡中学校）</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 スクールチャレンジ事業等により、学級文庫や学校図書館に新刊を購入する学校もあり、環境整備を前進させることができた。一例として、読みたい本や好きな本を手提げ袋に入れて、自分の机の横にかけ、すぐに手に取れるようにして「読書する楽しさ」を感じさせる工夫が見られた。 また、学校司書配置校では担任と連携し、学級文庫の充実など効果的な取組が進んだ。</p> <p>【課題】 児童生徒たちの興味関心が高い新刊を適切に選考する必要がある。学校内の児童生徒たちの動線を考えると足を運びにくい場所に学校図書館が位置している学校もあり、児童生徒たちが学校図書館へ行きたくなるような工夫や意欲的に読書していく習慣を作るために、「読書する楽しさ」を感じさせる環境整備が必要である。</p>



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向1 「確かな学力」の育成

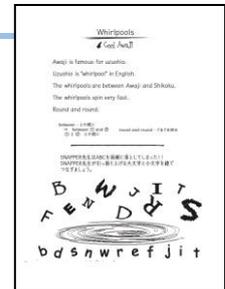
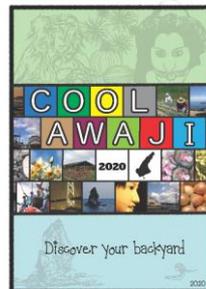
ALT・STを活用した外国語の授業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>小学校において、担任は授業の全体像を把握して授業を進め、外国語指導助手(ALT)はネイティブスピーカーの英語を話すモデルとして、外国語活動支援員(ST)は授業計画への助言や授業中の支援者として、外国語の授業をよりスムーズに進めている。</p> <p>中学校においてもALTを派遣し、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を養った。幼稚園、こども園、保育所、小学校低・中学年においても外国語に慣れ親しむことを目的として、ALTを派遣し、外国語活動のほか生活科や総合的な学習の時間を中心に、ゲームや歌、遊び等を主体とした外国語を用いた活動を行った。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小学校において、担任とALT・STが入って行う3人体制の外国語活動の授業が定着してきた。苦手意識がある児童に対しては、STが関わることできめ細やかな支援が可能となり、意欲を引き出すことができるようになってきている。また、担当者だけでなくALTとSTも授業研究等に参加し、授業モデル案作りや教材作りに取り組んだ。特にSTとALTの導入部分の研究は効果を上げている。STは、英語の指導経験の浅い教員の支えとなっている。中学校においてもALTのネイティブスピーカーの英語に触れることで外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を養った。</p> <p>【課題】 令和2年度より小学校で外国語活動及び外国語科が完全に実施された。授業数が増えた分の計画づくりや新教科書、新教材を使った授業づくりにALT・STを効果的に活用した指導計画、方法の研究を進めていく必要がある。</p>



「COOL AWAJI」の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	ALTとSTが作成した淡路島の名所や特産物を英語で紹介する外国語活動の副読本(テキスト)と動画を授業等で活用し、英語力の向上を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各校にテキストを配り、動画の視聴を勧めた。南あわじ市のホームページに動画をアップし、テキストにおいてはダウンロードできるようにした。昨年4月、5月の臨時休業中は、家庭学習に活用することができた。またYouTubeにも動画をアップし、再生回数を見ると、『モンキーセンター』は約4000回の視聴があった。動画については1つ1つの動画が非常に短くまとめられていて、テキストも使いやすい。インターネット環境に左右されないために、ケーブルテレビにも協力いただき、朝夕30分動画を放映した。</p> <p>【課題】 基本的に内容は淡路島の紹介である。視聴して、テキストを仕上げていくだけではなく、特に小学校高学年や中学生は視聴だけではなく、実際に英文を記憶したり、話してみたり、グループで役を決めて寸劇をしてみたりといろいろな活用方法を考えていく必要がある。</p>



プログラミング教育

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和元年度プログラミング教育推進委員会を中心に南あわじ市全体計画を作成した。令和2年度から全小学校で6年間にわたるプログラミング的思考の育成が始まった。中学校は、技術担当教員で新学習指導要領に基づき教材選定とカリキュラム編成をした。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各校へ4人に1台のプログラミング教材を導入した。モデル校となった松帆小学校では、県の動画サイト「スタートパック」を活用して積極的な取組を行った。iPadタブレットとも相性が良いためさらに活用度が増すと思われる。中学校への接続連携も視野に入れ、兵庫教育大学森山潤教授の研修会を開催し、世の中の役にたつプログラミング的思考を育成するための9年間のカリキュラム設計について理解を深めた。</p> <p>【課題】 教師自身が教材に慣れていないため、授業準備に時間がかかること、授業中にハプニングが起こった場合に個別対応をするための教師の体制を整える等の課題が明らかになった。</p> <p>プログラミング教育の授業はモデル校の授業や動画視聴による研修が有効であるが、機械操作やトラブル対応が得意な教員のOJTによる支援体制を整え、教師の資質向上を図る必要がある。</p>

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向2

「豊かな心」の育成

【重点目標】

ア 道徳教育・人権教育の推進

【主な取組】

- ① 道徳教育と人権教育研究プロジェクト
- ② 兵庫版道徳教育副読本の活用

イ ふるさと意識を醸成する教育の推進

- ① 副読本「ふるさと淡路島」
「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用

ウ 兵庫型「体験教育」の推進

- ① 環境体験学習
- ② 自然学校

道徳教育と人権教育研究プロジェクト

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小中学校9年間で共通テーマの人権教育教材を作成し、人権指導計画の検証・改善と充実を図るために、人権教育授業研究会を実施した。人権教育授業研究会での学びを通して、教職員自身の人権意識の高揚や指導力の向上を図った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 授業研究会について、小学校1、2年生を倭文小学校で、小学校3、4年生を榎列小学校で、小学校5、6年生を福良小学校で、中学校1から3年生を三原中学校で実施した。コロナ禍での実施となり、参加者の規模は縮小したが、教材研究や指導案検討は時間をかけて充実したものとなった。小学校では、学年ごとの課題にすべて取り組むことができた。また、中学校では、1年生で「LGBT」のテーマに取り組むことができ、総合単元指導計画を組んで集中的に学習を進めることができた。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症に起因する人権侵害、スマートフォンなどによるインターネット上における人権侵害などの新たな人権課題の解決に向け、指導計画の検証や新しい教材開発、教職員自身の人権意識のさらなる向上が必要である。「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」をブラッシュアップしながら、教育活動を展開していく必要がある。</p>

兵庫県版道徳教育副読本の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	地域教材を盛り込んだ兵庫版道徳教育副読本を活用し、児童生徒が身近で親しみを感じ、「考え、議論する道徳」の授業づくりへの取組を進めた。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 全小中学校において、道徳の授業だけでなく、総合的な学習の時間やキャリア教育、ふるさと学習など学校教育全体で副読本を活用することができた。身近で親しみを感じる偉人の話について考えることで議論が深まる授業が展開された。日々の授業だけではなく、家庭に持ち帰り、家族で読み合うなど、積極的に活用することができた。</p> <p>【課題】 「兵庫版道徳教育副読本」を活用し、教材分析や指導方法の工夫等、さらなる効果的な活用を継続して研究していく必要がある。</p>

副読本「ふるさと淡路島」「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	淡路ふるさと学習副読本「ふるさと淡路島」、あわじ環境未来島副読本「みらい」、「ふるさと兵庫魅力発見！」を活用して、ふるさと意識を醸成し、系統的なふるさと学習を学校教育全体で取り組んだ。 小学3年生用「キッズ南あわじ」改訂準備に社会科担当教員が取り組んでいる。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 淡路ふるさと学習副読本は、児童生徒自身が、社会科や理科、総合的な学習の時間等で、淡路島の地理や歴史・文化等の調べ学習等に活用できた。また、自然学校や環境体験の前後に副読本を使って学習することで、知識と体験が結びつき、地域の良さやすばらしさを児童生徒が体感することができた。初任者研修では、副読本「ふるさと兵庫魅力発見！」を活用し、ユダヤ人を救出した人物「樋口季一郎」の功績について学ぶことができた。</p> <p>【課題】 自分たちのふるさとである淡路島について学習する中で、ふるさと意識を醸成し、地域への愛着をどのように育てていくかが課題である。ふるさとの現状や課題にも目を向け、解決方法をみんなで考えようとする子ども達の育成を目指し、学校・家庭・地域が積極的に関わっていくことが重要である。</p>



環境体験学習

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小学校3年生では、校外での環境体験学習を3回実施している。校区の自然環境に触れながら、ふるさと意識を持ち、自然に対する畏敬の念や命のつながりの大切さを学ぶ取組を進める。 具体的には近くの山や川、池に行き、生物の観察を行ったり、田植え、稲刈りの実習をした。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 環境体験学習では、各校区における様々な自然環境に触れながら、地域住民や事業所の協力を得て、多くの体験活動を行うことができた。ふるさとの良さをあらためて確認することができ、自然に対する畏敬の念をはじめ、命のつながりや大切さを学ぶことができた。</p> <p>【課題】 活動実施後のアンケート等を活用して、その後の児童の生活や学習にどう生かされたかを検証し、指導の改善に努めることが重要である。またコロナ禍における効果的な活動プランの作成が必要である。</p>



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向2 「豊かな心」の育成

自然学校

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小学校5年生では、4泊5日の宿泊体験や多様なプログラムを通して、協調性・社会性やコミュニケーション能力を身につける。令和2年度はコロナ禍のため宿泊なしで2日実施している。淡路青少年交流の家にてカッター研修、南淡B&G海洋センターにてカヌーなどの海洋スポーツを体験した学校もあった。また南あわじ市では、各小学校の防災に関する体験プログラムを実施し、防災意識の高揚や命の大切さの学習を深めている。
成果・課題 及び 今後の対応等	<p>【成果】 自然学校では、多様なプログラムを通して自然を体感するとともに、集団生活の中で協調性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている。また、校区内の防災施設を確認する防災ウォークラリーや災害時を想定した野外炊飯等防災学習を実施している学校もあり、体験活動を通して防災意識を高め、命のつながりを考えるきっかけとなった。</p> <p>【課題】 活動実施後のアンケート等を活用し、その後の児童の生活や学習にどう生かされたか検証し、指導の改善に努めることが重要である。またコロナ禍における宿泊を伴う場合と伴わない場合の効果的な活動プランの作成や事前準備についての見直しが必要である。</p>



基本的方向3

「健やかな体」の育成

【重点目標】	【主な取組】
ア 体力・運動能力向上の推進	① 運動能力テスト ② 体力アップサポート事業
イ 食育の推進	① 食育推進事業 ② 食育チャレンジ
ウ 健康教育・安全教育の推進	① 避難訓練 ② 着衣水泳

運動能力テスト

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの測定項目である「握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ」を実施する。令和2年度は、コロナ禍のため、十分に実施することができなかった。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度は、コロナ禍のため一部の学校でのみの実施にとどまった。実施することができた学校の児童生徒にとっては自身の体力や運動能力の状況を把握できる良い機会となり、教職員にとっては児童生徒の現状を理解した上で発達段階に応じた授業を計画・実施することができた。</p> <p>【課題】 令和2年度に実施できた学校については、児童生徒が自身の状況を把握するだけにとどまらず、自身の状況から課題を見つけ、主体的に取り組み、運動能力向上につなげていく必要がある。教職員は発達段階に応じた授業を実施するとともに、そのような取組ができるよう授業内容を工夫する必要がある。実施できなかった学校については日々のアセスメントで児童生徒の状況を十分把握し、さらに授業内容を工夫していく必要がある。</p>

体力アップサポート事業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	「体力アップひょうご」サポート事業の一環として、市内中学校の保健体育科教員を校区の小学校に派遣し、年間3回以上の体育授業を行い、体力向上の取組を進めた。三原中学校教員を志知小学校に、南淡中学校教員を賀集小学校に、沼島中学校教員を沼島小学校に派遣し実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 志知小学校では、1から6年生まで、「投げる」運動の授業、賀集小学校では、1、4年生は器械運動、2、3、5、6年生は体ほぐし運動の授業、沼島小学校では1から6年生まで、マット運動の授業が行われた。専門的な内容が学齢に合わせてわかりやすく行われ、児童も意欲的に取り組むことができた。</p> <p>【課題】 事業が一時的イベントにならずに、日々の授業の実践や各学校での日常的な運動習慣づくり、そして児童の体力アップにつなげていく必要がある。また、小中連携を行いながら、体系的な体育のカリキュラムづくりを検討していくことも必要である。</p>



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向3 「健やかな体」の育成

食育推進事業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	学校教育全体で食育を実践している。「弁当の日」、「一年生保護者給食試食会」、「親子栄養教室」、「食育だよりの発行」等各校で特色のある取組を行っている。 和食・地産地消・食のマナーなど学校給食を活用して食育に取り組むとともに、学校給食に地場食材を活用し、ふるさとの味と食文化を継承していく。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 教科や特別活動等と関連づけながら学校教育全体で食育を行っている。農業体験で育てた野菜で料理を作ったり、いずみ会と連携して地場産物を活用した料理作り等に取り組んだ。 学校給食地場食材利用拡大推進事業では、7月はハモのフライ、8月はサンちゃんカレーを学校給食で提供することができた。また令和2年度は新たに兵庫県の学校給食提供事業により、淡路ビーフ、さわら、サクラマス、たこ、沼島のぶりなど地元産、県内産の食材を学校給食に提供することができ、どれも大好評であった。</p> <p>【課題】 家庭において、和食や伝統料理の継承が難しくなっている。手軽に食べ物が手に入る生活環境の中で、児童生徒だけでなく、家庭、地域に対しても、食に関する情報や淡路島の郷土料理を紹介、提供していくことが重要である。 今後も給食試食会を実施することで、食生活について考える機会を増やすとともに、地域と学校との連携をさらに深め、食育についても考える取組が必要である。</p>



食育チャレンジ

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	「健康南あわじ21」を指針として、市内小学校(主に2年生)を対象に、「早寝、早起き、朝ごはん、朝トイレ」の生活リズムを整える2週間のチャレンジ事業を継続することにより、リズムを整え、心も体も元気に毎日過ごす意識の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小学校15校全校で、「早寝早起き朝ごはん朝トイレアンケート」を実施することができた。2年生に関しては2週間のチャレンジの事前事後にアンケートを実施し、比較・分析の結果、ほとんどの項目で改善がみられた。改善の多かった項目は「早寝 夜は9時まで、ねていますか」の63%から78.2%へ、「テレビを消してごはんをたべていますか」の53.3%から68.3%へ増加している。また、6年生は6校で朝ごはん献立アンケートに答え、その分析結果を健康課栄養士よりコメントし、現状の把握、改善に役立てることができた。ほかに、3年生から6年生は、2年時に食育チャレンジを実施した児童が、毎年同じアンケートに回答し、生活の振り返りができた。</p> <p>【課題】 同じ児童の2年生時と現在の学年時点でのアンケート結果とを比較すると、「早寝」をすると答える児童の割合は、学年が上がるとともに減少する傾向がみられた。「朝食を食べている」割合は6年生でも96.8%と高い結果になったが、同じ集団の2年生当時のアンケート結果は99.3%であり、一部に朝食の欠食がみられるようになっていた。6年生の朝ごはん献立アンケートの結果は、3つの食品群からバランスよく食べられている回答もあったが、3つの食品群がそろっていない内容の回答も多くみられた。 今後も、「早寝、早起き、朝ごはん、朝トイレ」の生活リズムを、2週間のチャレンジ事業や、アンケート回答を通じて、振り返りの機会をもてるよう、支援していく必要がある。</p>



避難訓練

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	地震や津波、火災等の状況に応じた避難訓練、抜き打ちや様々な時間帯での避難訓練、幼稚園、こども園、保育所(園)との連携した合同避難訓練を実施し、想定外の自然災害等に生き抜く力の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各校ではコロナ禍での避難を意識した避難訓練が実施された。具体的には児童生徒間の距離をしっかりとる、手指消毒の徹底、場所によっては温度調整や換気の徹底、非常食は各自のものを食べる等である。実施の日時を知らせずに抜き打ちで行った避難訓練では、しゃべらず落ち着いた行動がとれていた。避難訓練後には訓練の反省点や気づいた点を防災マニュアルに生かすようにしている。</p> <p>【課題】 様々な時間帯の訓練は実施しにくい、時間を見つけて実施していくべきである。コロナ禍での避難を意識した避難訓練は、避難場所の拡大、避難にかかる時間等課題は山積している。また教職員の行動を確認する意味で、教職員だけの訓練もこれからは必要である。</p>



着衣水泳

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	各小学校で着衣水泳を行い、水難事故にあった際の考え方や着衣の重さによる動きにくさを体験し、いざという時にあわてず落ち着いた行動がとれるようにしていく。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度はコロナ禍の影響でプール水泳が中止となったため、実技の実施はできなかったが、資料や動画をもとに万が一に備えて、実際に着衣水泳をする際に、衣服と体の間に空気をためる等着衣水泳のポイントについて学習した学校もある。これにより、体力を温存したり、体温を保存したりしながら、長く浮いたり泳いだりすることの大切さに気づくことができた。</p> <p>【課題】 実際にはプールのように何も浮いていない状態ではなく、物であふれ、おだやかではなく、波や流れがあるかもしれない。もっと実際の水難事故や津波災害を想定した学習が必要になってくる。</p>

基本的方向4

特別支援教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 連続性のある多様な学びの充実
(縦の連携)

- ① 個別の教育支援計画
- ② 授業のユニバーサルデザイン化
- ③ 中高連携シートの活用

イ 一貫性のある支援体制の構築
(横の連携)

- ① 関係機関との連携
- ② あわじ教育相談

個別の教育支援計画

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	個別の教育支援計画について、本人・保護者と合意した合理的配慮及び福祉や医療等の関係機関の情報を反映するとともに、支援の役割を分担したり、見直したりするなど一貫性のある支援のために活用した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 市で統一した様式を一部改訂し、その様式を用いて各小中学校で個別の教育支援計画を作成することができた。3年間の目標(長期目標)や1年間の目標(中期目標)、1年ごとの支援内容と課題、評価が記入できるようになっており、3年先を見据えた系統的な計画を立てることができた。また、学校間の引継ぎについて、本人・保護者の同意を得たうえで、切れ目のない支援体制の充実を図った。</p> <p>【課題】 学期に1回程度、個別の教育支援計画を保護者と確認したり、校内支援委員会で検討したりすることで、より適切で一貫性のある支援を行う必要がある。また、学校間の引継ぎについて、将来を見据えた十分な説明と話し合いのうえで、本人・保護者の同意を確認する必要がある。</p>

授業のユニバーサルデザイン化

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	すべての学校において、ユニバーサルデザインに配慮した多面的な方法を取り入れた授業づくりを目指す。すべての中学校教職員に対して、特別支援教育に関する基礎知識の習得と指導力向上を図る研修を行った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各校において、兵庫県教育委員会が作成した講義動画「令和2年度すべての教職員のための授業改善研修 特別支援教育の視点を取り入れた授業改善～学びの困難さに応じた工夫～」(講師 ノートルダム清心女子大学 青山 新吾 氏)をすべての中学校教職員が視聴し、ユニバーサルデザインに配慮した授業づくりに向けての研修を実施した。小学校教職員については、令和元年度に同様の研修を終えている。iPadのアクセシビリティという機能を活用して漢字にふりがなをふったり、文章を音声で読み上げたり、文字を拡大したりする支援を行った。教室掲示や教材の構造化を図った例も見られた。</p> <p>【課題】 ユニバーサルデザインに配慮した多面的な方法を取り入れた授業づくりは、まだ不十分である。iPadのアクセシビリティの他、授業のユニバーサルデザイン化に有効な方法の研究が必要である。</p>

中高連携シートの活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	中学校・高等学校連携シートを保護者の同意のもとに作成し、本人の発達の特性、得意不得意、学習の状況、配慮事項等について、中学校から進学する高等学校へ引き継ぐことにより支援の継続を図った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度、中高連携シートの説明チラシが改訂され、保護者にとってより分かりやすい内容となった。あわせて、担任や特別支援教育コーディネーターから丁寧な説明をすることで、本人・保護者の同意を得ることができ、活用が進んだ。活用することで、高等学校へ進学した1学期から本人の特性等を理解してもらえ、スムーズな支援の継続を図ることができた。</p> <p>【課題】 中高連携シートを高等学校へ引き継ぐ際には、口頭での情報交換も行い、連携を充実したものにする必要がある。また、引き継いだ後も、必要に応じて中学校と高等学校が連絡を取り合い、情報交換しながら生徒本人の支援を継続していく必要がある。</p>

関係機関との連携

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	サポートファイルに、本人・保護者の願いや学校園の個別の教育支援計画、各関係機関、検査結果、支援方法等を綴り、そのサポートファイルに関係機関との連携に活用した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 幼こ保と小学校の引継ぎをスムーズにするために、サポートファイルについて幼こ保園所長会で説明した。また、小中学校に対しても、気になる児童生徒には本人・保護者同意の上で作成することができることを再確認した。関係者の理解が深まった結果、作成依頼が数件あり、サポートファイルの活用が少しずつ広がっていることが実感できた。関係機関との連携や園校種間での引継ぎに大いに活用することができた。</p> <p>【課題】 サポートファイルの活用は、少しずつ広がっているが、サポートファイルの詳細についての認知度は、まだ低い。継続して、サポートファイルについて知らせていくとともに、その内容や活用方法、引継ぎ方などについてより良いものになるようブラッシュアップしていく必要がある。</p>

あわじ教育相談

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫県立あわじ特別支援学校の相談員が、原則、毎月第2、第4木曜日に特別な支援が必要であると思われる幼児、小中学校に在籍する児童生徒を対象に日頃の生活や学習、進路における支援の方法等について教育相談を行った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 2人の相談員による対応で、令和2年度の相談件数は114件であった。教育相談を通して、幼児、児童生徒の支援方法がわかってきたり、医療機関を紹介することをきっかけに通院して特性を確認できたりと、将来に向けた支援の方向性について考えることができる取組となった。また、児童生徒本人と保護者だけでなく担任等も同席することで、学校園所との共通理解が深まり、スムーズに支援体制を構築できることもしばしばであった。</p> <p>【課題】 教育相談では通級指導や特別支援学級への入級、進路選択等の相談もあることから、淡路地域のセンター的役割をしているあわじ特別支援学校の相談員とさらに連携を深める必要がある。また、対面での相談のため、新型コロナウイルス感染症対策をさらに徹底したうえで実施していく必要がある。</p>

基本的方向5

キャリア教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 体系的・系統的なキャリア教育の推進

- ① キャリアノート等の活用
- ② 幼こ保・小・中・高の連携
- ③ 小中一貫教育

イ 社会に触れる機会の充実

- ① トライやる・ウィーク
- ② 夢プロジェクト

キャリアノート等の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	キャリアノートやキャリア教育指導資料等を活用して、自分自身のことや将来にわたって学ぶこと、働くことの意義・役割等を理解させ、自立する基礎となる基礎的・汎用的な力の育成を図った。また、令和2年度より、キャリア・パスポートを活用して、小学校から中学校、高等学校へとキャリア教育に関わる自らの学習状況を引き継いだ。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 学期のはじめや終わり、学校行事や学年での取組などで目標を立てたり、振り返ったりするために活用でき、様々な学習経験や活動を記録することができた。特別活動を中心に国語、社会、道徳などでも活用することができた。また、従来のキャリアノートは内容が充実することでファイル自体が厚くなり引き継ぎにくかったが、キャリア・パスポート(各学年A4サイズ2枚分)を活用することで、スムーズに引き継ぐことができた。</p> <p>【課題】 キャリアノートやキャリア・パスポートの引き継ぎ内容を十分把握した上で、新年度のキャリア教育の計画を立てる必要がある。また、キャリア・パスポートにある「先生から」の欄には一人一人の次のステップにつながるように後押しする内容を記入することが大切である。キャリアノートとキャリア・パスポートの活用をさらに促進し、充実したものにしていきたい。</p>

幼こ保・小・中・高の連携

担当課	子育てゆめるん課・学校教育課
事業内容・実施状況等	幼こ保から小・中・高まで、それぞれの園校種間の接続期において、子どもの発達や学びの具体的な姿を共通理解し、学びに繋げていく。授業研究会や研修会等を実施し、小・中・高間の交流をさらに進めていく。また、防災ジュニアリーダー研修など本市独自の事業を通して小・中・高生が共に体験できる事業や活動を通して連携を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 サポートファイルやあわじ教育相談を通して、幼こ保と小学校、小学校と中学校の接続期における情報交換、共通理解を促進することができた。キャリア・パスポートを活用して、小学校から中学校、高等学校へとキャリア教育に関わる自らの学習状況を引き継ぐことができた。また、幼こ保、小・中が合同で防災訓練を行うなどの連携も図った。南あわじ市教育支援委員会においては、令和3年度の特別支援学級の入級について、小学校入学に向けて幼こ保と小学校が、中学校入学に向けて小学校と中学校がそれぞれ情報共有し、連携を図ることができた。中・高間の接続期において連携シートの活用もなされた。</p> <p>【課題】 小・中の連携は比較的しやすいが、幼こ保や高校との連携が十分ではないため工夫が必要である。例として幼こ保と小学校との連携では県教委作成の「親子ノート」の活用が考えられる。親子ノートとキャリア・パスポートがつながると幼こ保から高校まで連続したものになることが期待できる。</p>

小中一貫教育

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和2年度より、沼島小中学校において、小中一貫教育を開始した。小中連携での計画的な行事や活動、特別支援や生徒指導等における円滑な連携を進めていく。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 沼島中学校の教員が沼島小学校6年生の授業(算数、社会、理科、外国語)を担当するカリキュラムを作成し、実施した。結果、小学校の5、6年生の複式学級が解消され、授業を充実させることができた。また、中学校の各教科の教員が小学6年生の学習状況を把握できたので、中学1年への接続が教員にとっても生徒にとってもスムーズであり、学習面における中1ギャップを軽減することができた。</p> <p>【課題】 小中一貫教育のカリキュラムについて、分析、改善していく必要がある。また、学習面だけではなく校務分掌や特別支援教育、生徒指導等における連携もさらに進めていく必要がある。</p>

トライやる・ウィーク

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	事業所、地域、学校、家庭との連携を図りながら、子どもを育てる活動として、中学校2年生を対象に23年目(平成10年度～)を迎えた。コロナ禍により、5日間の活動予定が1日の実施となった。内容も、各中学校の実態に合わせて、2校が事業所での職業体験を、4校がボランティア活動を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 1日の実施となったが、中学校における進路指導、キャリア教育と関連づけて、事前事後指導の充実を図り、生徒一人一人が自分たちの生き方を見つめ、考えるきっかけとなった。また、ボランティア活動を通して生徒が地域への貢献と繋がりを実感することができ、地域とのつながりがより深くなった。令和3年度に向けて新規の協力事業所の確保に努めるため担当者や事業所の代表者を集めて、トライやる・ウィーク推進会議を開くことができた。</p> <p>【課題】 この経験を活かして、事後も地域行事や地域の活動に参加するなどの活動「トライやる・アクション」がコロナ禍のため十分実施できなかった。トライやる・ウィークの活動と合わせてポストコロナ社会での活動の工夫が必要である。この事業で培われた地域の教育力を活用し、今後も事業所に協力依頼しながら生徒たちにとって充実した活動になるよう継続していきたい。</p>

夢プロジェクト

47～48ページにも記載

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	<p>小中学生を対象に、著名なスポーツ選手・文化人等を講師として招き、スポーツや文化の魅力や楽しさ、努力することの大切さを感じてもらうとともに、また友達を大切にする心を育み、大きな夢を持って今後の活動と豊かな生活を送ってもらうことを目的に実施した。</p> <p>(1)派遣学校 中学校 1校(沼島中) ※西淡中・南淡中は中止 小学校 4校(志知小・榎列小・八木小・市小)</p> <p>(2)講師 陸上 秋本真吾、鷲野哲平 ボーカルグループ 大石学、中井貴弘、宮本真人、長宗功 裁 アナウンサー 前田紗希 陸上 小林祐梨子 ビーチバレー 村上礼華</p> <p>(3)特別企画 「コロナに負けるなプロジェクト！」 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で休校となったことにより、ストレスを感じ、心配や不安な気持ちの子ども達に、少しでも元気に家で過ごしてもらうため、これまでの「夢プロジェクト」の講師の方々に、応援メッセージを依頼したくさんのエールが届き、市HPやフェイスブック等のSNSで配信した。また講師からは運動不足を解消するための自宅でもできるストレッチなどの映像も届けられた。</p> <p>〔協力者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.平野早矢香(元全日本代表卓球選手) 2.新島卓矢(元全日本代表体操選手) 3.小林祐梨子(元全日本代表陸上選手) 4.山本隆弘(元全日本代表男子バレーボール選手) 5.三村奈々恵(日本を代表するマリンバ奏者) 6.中橋敏彦(日本を代表する和太鼓奏者) 7.Cooley High Harmony(歌手、ボーカルグループ) 8.松浦宏治(元プロサッカー選手) ※南あわじ市出身 9.木場昌雄(元プロサッカー選手) ※南あわじ市出身 10.興津大三(元プロサッカー選手) ※南あわじ市出身 11.浦瀬泰司(元柔道選手) ※南あわじ市出身 12.秋本真吾(元陸上競技選手) 13.武田航平(俳優、声優、ファッションモデル、歌手) 14.マック鈴木(元メジャーリーガー／元プロ野球選手) 15.佐伯美香(元全日本代表バレーボール／ビーチバレーボール選手) 16.伴晃生(プロバスケットボール選手) 17.加地亮(元全日本代表サッカー選手) ※南あわじ市出身 18.樋口みさと(ダンスチーム Some OL') 19.梅花女子大学チアリーディング部レイダース 20.早稲田撰陵高等学校ウインドバンド部 21.田原のぞみ(元プロサッカー選手) ※南あわじ市出身 22.小錦八十吉(元大相撲力士) 小錦千絵(フラダンサー・歌手)
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小学校4校と中学校1校に対し、著名なスポーツ選手・文化人を講師として派遣した。学校からは、講演での印象的で勇気づけられる言葉や迫力のある実技を見てその刺激を受け、子ども達が将来の夢に向かって前向きに取り組もうとする良いきっかけになったなどの感想があった。また子ども達も「あきらめずにがんばる。」「コツコツと努力してがんばる。」などの感想もあり、夢プロジェクトとして子ども達の豊かな心を育む良い機会を提供できた。西淡中学校と南淡中学校は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止となった。</p> <p>またこれまで協力いただいたスポーツ選手や文化人からの応援メッセージで子ども達を含め多くの市民が勇気づけられた。</p> <p>【課題】 学校や子ども達のニーズに応じた講師を限られた予算内で依頼することや学校との日程調整等に苦慮する。</p>



榎列小学校



市小学校



志知小学校



八木小学校



沼島中学校



コロナに負けるなプロジェクト！

基本的方向6

幼児期における教育の充実

【重点目標】

【主な取組】

ア 幼児期における教育の質の向上

- ① 遊びから学びに繋がる体験活動
- ② 本との出会いの場の提供
- ③ 職員の研修

イ 幼児期と児童期の円滑な接続

- ① 幼こ保小連絡協議会
- ② 交流活動の充実
- ③ 育児力の強化

遊びから学びに繋がる体験活動

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	子ども達が展開する主体的な遊びとして、自然物の観察活動、季節の行事活動から広がる遊び、得意なことや興味あることを発展させた遊びを実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 季節の動植物は、子ども達の観察活動のきっかけとなっており、探求心の高まりから、図鑑を使って名前を調べ、しくみを知る活動につながった。同時にいたわりや大切に思う気持ちが育まれていった。</p> <p>季節の行事を通し、親しんだ文字や数を年賀状ごっこやカルタ作り等に活用させながら、文字の便利さに気づき、数の感覚を身に付けていくことができた。また、自分達の興味や得意なことを認め合い、クラスでの活動として計画し実践した。必要な物を揃え、遊びの進め方をクラスで相談し、互いの意見を受け入れ合い、共通の目的に向かって実現し、学びに向かう力が感じられた。</p> <p>【課題】 子ども達に寄り添い、理解しながらどんな事に興味を持っているのかを意識して関わり、それに応じた環境づくりを行える時間の確保が必要である。子どもの発達段階を把握し、環境設定、子どもの気づき、日々の保育の積み重ねで子ども達が楽しいと思える学びの場を作っていきたい。</p>

本との出会いの場の提供

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	保育の中での絵本読み聞かせ、思いやりポイントでの絵本の読み聞かせ活動、家庭への絵本貸し出し、自然観察等における図鑑活用を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 家庭への貸し出し絵本は、返却時に保護者から読み聞かせ時の子どもの様子などの感想をいただいている。子どもは保護者の優しい声を聞き、絵本を通して親子の会話が增え、質の良いコミュニケーションにより情緒が安定し、聞く力の発達や言葉の豊かさにつながっていると感じられた。</p> <p>保育の中での読み聞かせでは、絵本の中の登場人物になり切って想像の世界を自由に楽しんでいる。登場人物のさまざまな気持ちにふれることで他人の感情や思いを知ることができ、表現ごっこ、お話遊び、劇遊びに発展し、生活発表会の場で表現することを楽しんだ。また、園庭で見つけた動植物を図鑑で調べ興味、関心を広げる活動となっている。</p> <p>このように、絵本の読み聞かせは様々な人とのかかわりを深めている。</p> <p>【課題】 絵本の読み聞かせでは、親子のふれあいで愛情が深まる事や、子ども達の想像力とコミュニケーション能力が育ち、言葉や表現力の豊かさ、読書好きとなり総合読解力が育つ基礎となるようにしていきたい。文字が読めることと、本が読めることの違いを保護者に知らせ、絵本読み聞かせの重要性を伝えていきたい。</p>

職員の研修

担当課	子育てゆめらん課
事業内容・実施状況等	職員の研究・研修会として、幼稚園教諭新任研修、中堅研修、南あわじ職員研修会（実技・講演）、講師を招き実施した研修、オンライン研修に参加した。 また、園内研修や主任保育教諭会、保育士会、幼稚園・こども園での担当者研修会等を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 保育教諭の資質向上のため毎年実施している研修会に参加した。またオンライン研修には大勢の保育教諭が参加することができた。受講した研修内容を園で報告・伝達し、園内研修を行うことで職員のコミュニケーション、意見交換、情報共有、共通理解の場となり、幼児理解に繋げている。</p> <p>【課題】 今後も子どもの成長をサポートできるように様々な研究・研修会に参加し資質向上、自己啓発に取り組んでいきたい。</p>

幼こ保小連絡協議会

担当課	子育てゆめらん課・学校教育課
事業内容・実施状況等	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続と体制作りとして、各校長・園長が集まり、交流計画や連携についての意見交換を年2回実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 幼稚園・こども園・保育所（園）・小学校の交流内容について、お互いに意見交流や情報交換ができ、幼児教育への理解が得られた。特に、幼稚園教育要領改訂の実施に伴い、幼稚園・こども園・保育所（園）において、幼児期の教育として「幼児期において育みたい資質・能力」が、小学校につながる「基礎」となることを、研修会で学ぶことができた。幼稚園・こども園・保育所（園）・小学校の連携を大切にするためにも、幼児と向き合い、どう育てるか見直し、資質能力の育成に努めることの重要性を感じた。</p> <p>【課題】 幼稚園・こども園・保育所（園）と小学校の交流の場を広げるだけでなく、お互いに授業参観を通して、どんな力や学びが繋がっているのか、理解し合うことが必要である。今後、幼児期の教育と小学校の教育に滑らかな接続に取り組むためにもカリキュラムを整える必要がある。</p>

交流活動の充実

担当課	子育てゆめらん課
事業内容・実施状況等	開かれた園づくりの一環として、園庭開放を実施し、他園・小学校・トライやるウィーク・地域・外国人・老人会・更生保護女性会・学校評議員等との交流活動を行った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルスへの感染症予防対策により、交流活動は縮小されたが、地域から収穫物や自然物が届き、周りの人達が見守ってくれている温かさを感じる機会に恵まれた。また、運動会や発表会に向けて活動する子ども達の姿を小学校の先生や学校評議員に参観してもらうことで、園の取組への理解や子ども達の成長に関心を寄せてもらう場となった。毎月配布する園だより、クラスだよりは、園の運営や子ども達の姿を伝える有効な手段となった。</p> <p>【課題】 交流活動等の回数は減少したが、活動の取組について見直す機会となり、今までは違った方法を考えていく。また、地域に開かれた園づくりを目指し、地域ならではの良さを生かす活動の発信や取組の工夫をし、人との繋がりを絶やさず続けていく努力をしていく。</p>

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向6 幼児期における教育の充実

育児力の強化

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	子育て支援事業として、幼児教育・保育の無償化、預かり保育、病児・病後児保育に取り組んだ。 保護者支援活動として、幼児教育資料すくすくひょうごっ子の配布、園での保護者研修会、個人面談を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 預かり保育や病後児保育事業への取組での利用率は高まってきている。また、園行事として親子参加型の研修、人権研修、子育て研修等の保護者研修会を実施した。参加人数も多く、熱心に取り組む保護者も多い。行事や研修後には、保護者からの様々な意見や感想を保育の参考にしたり、多くの保護者に紹介するなどの情報提供をした。個人面談などでは、子育てについてのヒントや話し合いをする場として保護者との連携を図り、子どもの成長につなげた。</p> <p>【課題】 幼児期における子どもの一人一人の成長をわかりやすく保護者に伝えていく方法(幼児教育資料や個別の学びの育ちノートの作成など)を計画し、子育ての喜びが感じられるような教育、保育の充実を図り、保護者支援を行っていく。</p>

基本的方向7

南あわじ市の防災教育の推進

【重点目標】	【主な取組】
ア 防災教育の充実	① 防災ジュニアリーダー養成事業 ★ ② 防災出前授業 ③ 自然学校「防災学習」
イ 学校防災体制の充実	① 学校防災マニュアルの作成 ② 避難所運営部会

防災ジュニアリーダー養成事業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>小中学生を対象に参加者を募り、防災ジュニアリーダー養成合宿、東北ボランティア活動を継続していき、将来の災害において臨機応変に対応できる力やリーダー性を身につける。令和2年度はコロナ禍のため中止した。</p> <p>南あわじ市内の内陸部と沿岸部の中学校間で、防災パートナーシップを締結し、研修会を実施して、自校の役割を確認した。また阪神淡路大震災を振り返るとともに、コロナ禍での市町での対応、学校でできる対応について台湾の日本人学校と意見交流をした。</p> <p>中学生を対象に全国防災会議にオンラインで参加した。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 市内中学校の相互扶助を目的とした防災パートナーシップの締結に際し、ZOOMを使用したオンラインの打ち合わせ会や集合研修会を実施することができた。全国防災会議はオンラインではあったが、全国の中高生と交流を図ることができ、防災への知識や意識を高めることができた。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルスの影響で、防災ジュニアリーダー養成合宿、東北ボランティア活動が中止となった。コロナ禍に対応した防災教育や、体験活動のあり方を考え、進めていかなくてはならない。</p>



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

防災出前授業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	平成29年5月に舞子高等学校と南あわじ市で教育に関する協定を結び、1年に3回、計6校の予定で高校生による防災出前授業を継続している。 また、教育長が講師となって市内小中学校を訪問し、「防災をなぜ学ぶのか」をテーマに児童生徒を対象に防災学習の講演を実施している。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 舞子高校による防災出前授業は、コロナ禍ではあったが、2校で十分な感染防止対策のもと対面式で実施した。児童にとって親しみやすく、わかりやすい授業となった。教育長の出前講座はコロナ禍で人数の関係もあり、学年を絞っての実施ではあったが、小中学校9校で実施することができた。少人数にしたことにより、個々の意見にも十分時間をかけることができ、防災の理解が深まった。</p> <p>【課題】 ワークショップ形式の授業は、対面形式では実施しやすいが、オンライン授業では伝わりにくい部分がある。ハイブリッドな形も含め、今後防災教育を深めていくために、その時の状況に応じた効果的な授業形態を考えていく必要がある。</p>



自然学校「防災学習」

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	市内全小学校の5年生が、自然学校において、震災・学校支援チーム(EARTH隊員)や市役所危機管理課職員を招くなどして、各校で工夫した防災学習に取り組んでいる。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 EARTH隊員による校区内の防災施設を確認する防災ウォークラリーを実施し、災害時の避難行動について考えることができた。また災害時を想定した野外炊飯等を実施している学校もあり、制限された状況下で野外炊飯を実施し、水が十分使用できないだけでも非常に不便であることを体験することができた。日々の生活に防災の視点が少し入ってくるだけで、防災意識や知識が向上し、いざという時の自分の命を守る行動につながるのだということを学習することができた。</p> <p>【課題】 コロナ禍での避難等、複数災害下での行動はこれまでの防災学習ではカバーしきれない部分がある。経験や学習したことのない場面に遭遇しても、その時の状況や情報からよりよい判断、行動ができる力の育成が急務である。</p>

学校防災マニュアルの作成

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	学校独自で作成している「防災マニュアル」を、防災訓練等の機会を活用して見直し、校内研修を通じて危機管理意識や判断力、行動力の育成を目指し、組織としての連携を図る。また、被災時の避難所運営において、地域における学校の役割、教職員個々の役割等についても理解を深める。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 従来の学校防災マニュアルがコロナ禍に対応しているか見直しをすることができた。被災時の避難所運営において、地域における学校の役割、教職員個々の役割等についても理解を深めることができた。</p> <p>【課題】 コロナ禍の影響で、避難の際、人数制限や消毒、トイレや食事の確保等今まで以上に様々な事態の想定が必要になってくる。これからは高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦やコロナ感染者等要支援者への配慮が必要になってくる。</p>

避難所運営部会

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	地震拠点避難所7箇所に関係者が集まり、部屋割り、物資管理場所、避難所生活でのマナーとルール、避難所での役割分担等を確認し、情報の共有を徹底する。また、各場所の避難所運営部会の報告を挙げ、避難所開設・運営マニュアルの内容を確認している。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和元年度は8月末に防災教育推進連絡会議、9月に拠点避難所部会を実施したが、令和2年度はそれぞれ1カ月早めて実施することができた。またコロナ禍における十分な対策の上で研修を実施することができた。</p> <p>【課題】 コロナ禍を想定し、拠点避難所だけでなく、広域避難所においても関係者の打ち合わせや被災時を想定した訓練が必要である。</p>



基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

基本的方向1 教職員の資質・能力の向上

基本的方向2 学校の組織力の強化

基本的方向3 安全・安心な教育環境

基本的方向4 家庭と地域による学校と連携した教育の推進

基本的方向5 人権文化をすすめるまちづくり

基本的方向1

教職員の資質・能力の向上

【重点目標】	【主な取組】
ア 研修体制の充実	① 基本的な資質・能力向上のための研修 ② 南あわじサテライト講座 ③ スクールチャレンジ事業の活用 ★
イ 教職員の働き方改革の推進	① 教育用コンピュータ管理 ② 教職員の勤務の適正化

基礎的な資質・能力向上のための研修

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	絶えず研修を深めることで、「学習指導」「学級経営」「生活指導」等の教育の専門家として感性豊かな実践的指導力の向上をめざす。また、すべての教職員にとって必要な高い使命感・倫理感のさらなる醸成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度は緊急事態宣言明けの6月にスタートとなり、学校再開にあたっては児童生徒の心の安定を優先し、丁寧な児童理解に基づいた「学級経営」の研修を行った。また、校内研修では、新学習指導要領に基づいた教科書の教材研究や授業研究に取り組んだり、児童生徒が主体となる授業改善や視覚的支援に有効なICTの活用等の推進をしたりした。「生活指導」として、コロナ禍による新しい生活様式の理解研修やいじめへの対応研修を基にOJTによる研修体制を整えた。</p> <p>【課題】 コロナ禍のため専門家を招聘した研修が動画やオンライン研修となり、話し合ったり、考える時間が少ない伝達研修となった。そのため、校内研修では、目的に応じた効果的な研修を考えていく必要がある。また、ストレスによる非違行為やメンタルヘルス等の研修は必要である。</p>

南あわじサテライト講座

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫教育大学との提携により、南あわじ市サテライト講座を5回行っている。そのうち2回は教職員の資質向上研修で、3回は学校経営講座をしている。南あわじ市並びに淡路地域の学校づくり、管理職・ミドルリーダー等の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度の資質向上講座は、森山教授の「プログラミング教育」、井澤教授の「行動分析における児童支援」を実施した。小学校でのプログラミング教育の目的や小中連携の重要性や応用行動分析から「できる」ための環境づくりについて研修することができた。学校経営講座では、浅野教授の「リーダーシップ開発」「コーチング・マネジメント」「良い学校とは」をワークショップを交え行った。学校における管理職や主幹教諭、ミドルリーダーを中心に、教師としての資質・能力の向上を図り、学校運営やマネジメントについて意見交流しながら深く学ぶ場となった。</p> <p>【課題】 教師の資質・能力の向上は必須である。今後は、学校運営を担う管理職が不足する事態が予想される中で、マネジメント能力育成や中堅教員の資質向上等を通して、学校経営の見方考え方を育成し、社会の多様な価値観への対応を組織として構築する必要がある。</p>



基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

基本的方向1 教職員の資質・能力の向上

スクールチャレンジ事業の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和元年度より開始し、各学校がそれぞれの課題や特色に応じて、主体的に独自の切り口で課題解決に取り組む。また、研究指定を受けて取り組んできたものをさらに継続発展させる。事業の取組状況や成果については、校務支援システムやHP等において共有化を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各学校は前年度のうちに学校評価などを基に取組課題を洗い出し、研究テーマを設定し、計画することとした。そのことで、大きな成果として3点ある。1つ目は課題を焦点化し、全教職員で共有できたこと。2つ目は計画的な授業研究等を行えたこと。3つ目は教職員の自主性が育めたこと。この取組を継続的に実施し、PDCAサイクルを活用することで効果的な学校運営ができると期待している。また、校務支援システムの掲示板の活用やHPの開設ができ、学校教育の見える化が進んだ。</p> <p>【課題】 これまで研修により教職員の資質・能力が向上してきたが、児童生徒のどの資質・能力が向上しているのかに意識を向けていくことが大切である。各学校の取組が、児童生徒のどの資質・能力の向上になっているのか、子どもの姿を到達度別にした評価表に記入することで児童生徒自身と教職員が目標を共有し、さらに成果の検証に繋げることが必要である。</p>

教育用コンピュータ管理

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	GIGAスクール構想実現のため、児童生徒に1人1台のLTE対応のタブレット端末を導入した。令和元年度より導入した校務支援システムについて、全小中学校でのグループウェア機能及びモデル校における校務支援機能の試験運用を引き続き行った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 タブレット端末については、令和5年度までに1人1台の端末を導入する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で学校が一斉に休校し、その影響により前倒しで市内全小中学校の児童生徒に1人1台のタブレット端末を導入することになった。校務支援システムについては、全校で本格稼働した時に、より効率的に運用できるよう、モデル校での校務支援機能の試験運用等の結果を踏まえ、校務支援システムの機能改善、帳票のカスタマイズ等を行った。</p> <p>【課題】 タブレット端末の年度更新時には、データの初期化、アカウントの再設定等に時間を要したことから、効率的に実施できるよう更新方法の見直しが必要である。校務支援システムについては、さらなる校務の効率化を図るため、引き続き機能改善を行うとともに、安全かつ安心して運用できるよう、セキュリティポリシーの策定を行い、情報セキュリティの向上を図る必要がある。</p>

教職員の勤務の適正化

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	統合型校務支援システムを導入し、グループウェアを用いて校務の市内統一化を進めることにより、業務の効率化を図る。さらに教職員の業務を見直し、担うべき業務に専念できる環境整備を推進する。そして、教職員の長時間労働の状況を改善し、教職員が子どもと向き合う時間を確保する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 教職員勤務時間適正化検討委員会、業務改善に係るIT推進委員会や専門部会等組織的に業務改善対策を協議することができた。また統合型校務支援システムについてはモデル地区の先行実施における実施状況の報告を受け、システム面の改善や運用面についてのマニュアルを作成した。集合研修・訪問研修等計画的に進めることができた。教職員の長時間労働については、新型コロナウイルスの影響もあり、学校行事の精選や内容のスリム化を図る中で、ずいぶん減少してきた。</p> <p>【課題】 統合型校務支援システムの導入直後は使い慣れるまでは時間がかかることが想定されるが、導入後も計画的に研修を実施し、全教職員の業務改善につなげていく。また各種の委員会でシステムや運用マニュアルの見直しは引き続き必要である。教職員の長時間労働については、学校において記録簿のあり方を見直し、学校安全委員会の活用を図り、教職員のメンタルヘルスの保持・増進に配慮した校園内体制等を構築していく。</p>

基本的方向2

学校の組織力の強化

【重点目標】

【主な取組】

ア 管理職の育成

① 南あわじ市サテライト講座「学校経営講座」

イ いじめ等問題行動・不登校への対応

- ① いじめ防止
- ② 不登校児童生徒への支援の充実
- ③ 市小・中・高生徒指導連絡協議会

南あわじサテライト講座「学校経営講座」

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫教育大学の浅野教授による学校経営講座を3回開催する。そのうち、1回は教授と現職大学院生による学校視察・学校評価を実施し、学校経営やマネジメントについて意見交流会を持つ。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各学校の課題や学校運営やマネジメント等について、グループ討議をし意見交流会を行った。浅野先生の精力的な講座「リーダーシップ開発」「コーチングマネジメント」「良い学校の条件」を受け、改めてミドルリーダーや管理職の役割を考えることとなった。さらに学校視察・学校評価では、阿万小学校、西淡中学校、淡路三原高等学校へ6名程度ずつ教授と現職教員大学院生が現状を把握・分析し、改善方策の提言をいただいた。</p> <p>【課題】 講座で学んだことを各校においてフィードバックし、組織的な人材育成及び学校経営を改善する実践に繋げる必要がある。社会の変化の大きさとスピードが一段と増している中でリーダーを中心に学校の「改善力」を高め、変えていかなければならない。</p>

いじめ防止

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>いじめ問題対策連絡協議会は、学識経験者、保護者代表、学校代表、南あわじ市警察署、人権・福祉等関係機関を委員に委嘱し、市のいじめ防止について市内の状況や小中学校での取組等、情報交換及び協議を行った。</p> <p>いじめ問題対応委員会は、弁護士、精神科医、臨床心理士、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを委員に委嘱し、市内小中学校の状況を情報共有後、重大事態への対処について確認を行った。</p> <p>学校運営支援対策員事業では、学校と密接に連携し、生徒指導上の課題に対する相談や問題の未然防止・早期発見・早期対応の支援を行った。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小中学校の中には児童生徒が主体となって、いじめ防止の活動を行うなど、教師からの指導だけに偏らず、児童生徒側からも積極的にいじめと向き合い、いじめを許さない集団づくりを進めることができた。また、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題対応委員会で、各学校の現状と取組について情報共有ができ、いじめを許さない学校づくりについて意見交換を行い、学校への啓発を行うことができた。またいじめ事象の分析を行い、情報共有を図った。</p> <p>【課題】 インターネット、スマホ等でのいじめは、実態が把握しにくくなってきている。いじめの芽を見逃さず、早期発見、早期対応するためにも、全教職員が積極的に認知を行っていく。また学校と保護者・地域・関係機関がさらに連携を密にして、対応・啓発していく必要がある。</p>

不登校児童生徒への支援の充実

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>適応教室(4教室)において、不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行う。</p> <p>校内の生徒指導委員会で情報共有し、必要に応じて適応教室指導員、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携を図る。また、中学校区の生徒指導連絡協議会にて情報共有し、小中連携を図る。また、南あわじ市小・中・高生徒指導連絡協議会では現状の把握や関係機関との連携を図り、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援を行う。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 4、5月の臨時休業中に不登校児童生徒本人、保護者としっかり話をすることができ、一時的に登校が増える結果となった。また適応教室のインターネット環境の整備を行い、各学校とZOOM等による連絡を取ることができた。またGIGAスクールによる学習用iPadを活用し、学校と家庭、学校と別室をつなぎ、授業を受ける事例もあった。</p> <p>【課題】 児童生徒が何らかの理由で休み始めた時に、早期に、組織的な対応をする必要がある。</p>

市小・中・高生徒指導連絡協議会

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>青少年育成センター長、南あわじ市警察署、市民福祉部子育てゆめるん課、淡路三原高等学校生徒指導、小中学校生徒指導担当校長、小学校ブロック代表生徒指導、各中学校生徒指導、教育委員会を委員として、年に5回実施する。各関係機関から情報提供及び今日的な問題を全体で協議する。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 問題行動や不登校児童生徒の問題が小・中・高どの校種で発生しようと、情報共有を図り、関係機関から情報提供いただけるシステム作りができていますので、解決が早い。また今年はスマホ・ネットのアンケート調査票を市内の中学校で統一することができた。</p> <p>【課題】 年に5回実施しているが、各校種の問題行動・不登校等の報告が増加し、全体で協議する時間が減少している。</p>

基本的方向3

安全・安心な教育環境

【重点目標】

【主な取組】

ア 施設・設備の改修

- ① 大規模(長寿命化)改造工事
- ② 校舎等営繕工事

イ ICT等の設備

- ① 統合型校務支援システム

大規模（長寿命化）改造工事

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	老朽化を迎えている学校施設の耐久性及び機能性の向上を図るため、大規模改造工事を行う。令和2年度に実施予定だった、松帆小学校、志知小学校、賀集小学校の大規模改造工事が新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染症の影響により夏季休業日が短縮されたため、夏季休業中に行う予定だった3校の大規模改造工事ができず、令和3年度に延期になった。</p> <p>【課題】 3校とも老朽化が著しく、安全で安心できる教育環境を実現できるよう、令和3年度には工事を完了させなければならない。</p>

校舎等営繕工事

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	屋内運動場床改修工事やトイレの洋式化工事など、大規模改造工事のような施設の全面改修には至らないが、特定の目的をもって部分的な改修を進めていくことで安全・安心で学習効果の高い教育環境を維持管理する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 阿万小学校特別支援教室等への空調設置、志知小学校プール等改修工事、6校の屋内運動場床研磨工事、3校のトイレ洋式化等を行い、安全に学習できる環境を整備することができた。</p> <p>【課題】 児童生徒が安全に安心して学習できるよう、計画的に実施する必要がある。また、学校施設に求められる環境も変化してきており、バリアフリーや、トイレの洋式化等への対応も合わせて検討する必要がある。</p>



阿万小学校 特別支援教室空調設置



志知小学校 プール等改修

統合型校務支援システム

担当課	教育総務課・学校教育課
事業内容・実施状況等	児童生徒の家庭や学習情報管理、成績管理、健康観察等に加え、メールや掲示板等のグループウェア機能活用により教職員の負担軽減、教育の質的向上、校務の標準化と業務改善等を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度においては、成績・出欠等の校務支援全機能についてモデル校(旧西淡地区の小中学校5校)での稼働結果の検証を行い、校務支援システムの改善や運用マニュアルの作成及び見直しを行ってきた。その結果、より効率的に運用できるようになった。</p> <p>【課題】 モデル校においてアンケートをとった結果、半数近くの教職員が導入前より良くなったと回答している一方、一部の教職員については導入前より名簿作成等に時間がかかるようになったとの回答があった。その要因としては、操作に不慣れなことや帳票や作成方法がシステム導入前と異なっていることなどが考えられる。システムの操作方法等に慣れ、業務改善を図るためには、システムの改善や定期的な運用マニュアル見直し及び操作研修などを引き続き行う必要がある。</p>

基本的方向4

家庭と地域による学校と連携した教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 家庭の教育力の向上

- ① 学力向上リーフレットの配布
- ② 家庭学習の手引き

イ 地域の教育力の向上

- ① 放課後児童健全育成事業
- ② 放課後子ども教室事業
- ③ サマースクール事業
- ④ 地域学校協働連携事業
- ⑤ 青少年育成センター事業

学力向上リーフレットの配布

担当課

学校教育課

事業内容・実施状況等

全国学力・学習状況調査を分析し、家庭の教育力向上のため市教育委員会で保護者向けにリーフレットを作成・配布した。各小中学校で課題を明確にし、学校・家庭・教育委員会で学力向上に向けた取組を進めていく。令和2年度は、全国学力・学習状況調査が中止となったため、学校質問紙、児童・生徒質問紙のみを全小中学校で実施し、その結果を分析して作成・配布した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】 「南あわじっ子に確かな学力を！」と題して、家庭で学力を育てるためのポイントをまとめた。全小中学校保護者に向けて配布することで、家庭のかかわりの大切さや生活習慣の確立などを啓発することができた。小中学校では学力向上に向けた授業改善プランの作成時の参考資料としてリーフレットを活用することができた。また、「第3期南あわじ市教育振興基本計画」の南あわじ市の目指す教育のテーマ「学ぶ楽しさ日本一」をわかりやすく掲載することができた。

【課題】 令和2年度は、全国学力・学習状況調査が中止となったので、教科についての調査結果をリーフレットに入れることができなかった。令和3年度は児童・生徒質問紙の結果と合わせて、教科についての結果もわかりやすくまとめていく。



家庭学習の手引き

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	子どもの望ましい学習習慣や生活習慣の形成に向けて、各学校は発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を配布している。また、市からは「南あわじっ子に確かな学力を！」のリーフレットを配布し、家庭での取組や学習について、学校と家庭の連携を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各学校は、子どもの発達段階に応じた家庭学習の時間や方法、生活習慣の形成に係る内容や新しい学習指導要領等についてまとめてリーフレットを作成し、令和2年度も配布した。学校と家庭との連携を図り、保護者の教育への意識の向上に取り組むことができた。</p> <p>【課題】 保護者に対しては、学習習慣や生活習慣の形成が重要であることを継続して啓発し、リーフレットの内容をさらに工夫・充実させていく必要がある。また、子どもが主体的に家庭学習に取り組めるように、学校と保護者がさらに連携していくことが大切である。</p>

放課後児童健全育成事業（学童保育）

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	共働き家庭等の小学生の児童（1年生から6年生）を対象として、放課後等に遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図る目的で、市内13か所（学校内9か所、専用施設2か所、公民館内1か所、私立こども園内1か所）で実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により4月、5月と小学校が休校となり、長期休暇同様の開設をした。さらに、支援員への研修会を実施し、資質向上を高めた。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 登録者は全体で平均342人であり、令和元年度の平均より16人の増加となっており、社会状況の変化による核家族化や共働き家庭の増加が考えられる。学童保育では、読書や遊びの中で、異年齢の児童がともに学び合う機会を創出したことで、子ども達の生き生きとした姿等が見られた。</p> <p>【課題】 安心安全な環境を確保するとともに、遊びの中に学習・体験・スポーツ等のプログラムを取り入れ、放課後子ども教室との一体型を実施しながら、学童保育と放課後子ども教室を融合した「アフタースクール事業」を進めていく。多様な子どもたちのニーズ等に対応する支援員の知識を養うための人材育成も必要である。さらに、地域とともに子どもたちの積極性や自立性、社会性、コミュニケーション力を育めるよう「学ぶ楽しさ日本一」の実現を目指す。</p>

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

放課後子ども教室事業

担当課	体育青少年課												
事業内容・実施状況等	市内3校区(湊・辰美・志知)において、すべての児童(1年生から6年生)を対象として、市内地域の方の協力を得ながら、異年齢による工作・楽器演奏・スポーツ等様々な体験プログラムや交流・遊び等を通し、子どもたちが安全で健やかに過ごせるよう居場所を提供した。												
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 志知教室では、週3回、湊教室及び辰美教室では、週2回の活動を実施し、そのうち辰美教室では、月に1回程度、辰美学童保育との一体型運営を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により4月、5月と小学校が休校となり、各教室において、休校中の活動中止により開催数、参加人数ともに減少した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>比較</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総開催数</td> <td>306回</td> <td>235回</td> <td>↓71回</td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>5,200人</td> <td>3,905人</td> <td>↓1,295人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】 事業に対する補助金が毎年削減されているため、事業拡大するほど一般財源の負担割合が大きくなる。一方で、放課後児童クラブ(学童保育)と放課後子ども教室の両事業を融合したアフタースクール事業への拡大を図るため、事業に参画するスタッフの確保を継続して行う必要がある。</p>	比較	令和元年度	令和2年度	増減	総開催数	306回	235回	↓71回	のべ参加人数	5,200人	3,905人	↓1,295人
比較	令和元年度	令和2年度	増減										
総開催数	306回	235回	↓71回										
のべ参加人数	5,200人	3,905人	↓1,295人										

サマースクール事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	市内の子ども達を対象に、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、長期休暇に体験プログラムを計画・実施し、青少年の健全育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 長期休暇ならではの野外プログラムや体験学習、継続的なプログラムを実施することで、子ども達に経験の場を提供し世代間交流を促すことが目的であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により4月、5月と小学校が休校となり、長期休暇(夏休み)が縮小されたため、サマースクール事業(やまの学園等)の実施を縮小し、「記者トレ」事業のみの実施となった。「記者トレ」では、小学5年生及び6年生の児童を対象にアナウンサーを講師として、コミュニケーション力、表現力、論理的思考力の養成や「伝える力」を学ぶ場を提供できた。</p> <p>〔参加人数〕 記者トレ IN青少年交流の家(8/29、9/12) 26人</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底しながら、中央公民館主催のわんぱく塾事業の体験活動内容と調整しながら事業を実施し、スタッフの人材確保を継続して行う必要がある。</p>

地域学校協働連携事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	学校と地域が一体となって子ども達の成長を支えるため、地域住民に学校支援ボランティアとして協力をお願いし、市内小中学校の各種授業や学校行事等の運営を支援している。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 校外学習(町探検)の引率、校内マラソン大会の安全管理、小学1年生の下校時の見守り引率、家庭科授業での製作補助(エプロン、ナップザック等)、交通安全教室の補助に加え、自然学校でのカッター訓練の補助、図書室での本の登録やバーコード貼り、ブックカバー付けなど学校における人手不足のための依頼に対する支援を行った。また、ボランティアの確保や活動を広く周知するため、ボランティアが必要な小学校区に募集チラシや活動状況のチラシを配布した。新型コロナウイルス感染症の影響により4月、5月と休校となったため、13校の小中学校において、53回の活動となり、令和元年度より減少した。新たに、8人のボランティアの登録があった。</p> <p>【課題】 引き続き、各地域、校区で活動可能な新たな地域ボランティアの確保に向けて、活動を広く周知することが必要であるとともに、市民交流センターと協力しながら地域と学校が連携・協働する体制を構築していく必要がある。</p>

青少年育成センター事業

担当課	体育青少年課								
事業内容・実施状況等	<p>子ども達の健全育成事業を各種団体長、関係機関が集まり、青少年問題協議会を設置。新型コロナウイルス感染症の影響により南あわじ子育てネットワーク推進協議会と共に開催予定であった青少年健全育成市民会議は中止となり、青少年問題協議会のみで開催となった。</p> <p>また、青少年補導委員による街頭補導活動の充実、「地域のおじさん・おばさん運動」の推進、学校・地域・関係機関との連携強化を図る活動を展開した。</p> <p>南あわじ市スマホ・ネット推進委員会を開催し、市内小中学校の全児童生徒に南あわじ市スマホルール等の啓発リーフレットを配布した。</p>								
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 非行を未然に防ぐため、年間を通して青少年補導委員による一斉街頭補導活動や地域のおじさんおばさん運動等を継続している中で、青少年を有害な環境から守り、非行化を未然に防止するものとなっている。</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)青少年健全育成市民会議</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>(2)補導委員活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・活動回数</td> <td>101回</td> </tr> <tr> <td>・活動延べ人数</td> <td>457人</td> </tr> </table> <p>【課題】 インターネットの利用に関して青少年を犯罪から未然に防ぐため、ネット利用の危険性や家庭内でのルール作りなど必要な情報を提供してきたが、今後さらに関係機関・団体等と情報の共有、連携を図りながら、より巧妙になる犯罪の手口から子どもを守っていくため、適切な利用の啓発活動を展開し、周知を図ることが必要となっている。</p>	(1)青少年健全育成市民会議	中止	(2)補導委員活動		・活動回数	101回	・活動延べ人数	457人
(1)青少年健全育成市民会議	中止								
(2)補導委員活動									
・活動回数	101回								
・活動延べ人数	457人								

基本的方向5 人権文化をすすめるまちづくり

【重点目標】

【主な取組】

ア 人権教育の推進

- ① 人権学習会、研修会の開催
- ② 市人権教育研究協議会との連携

イ 人権を身近な課題とするための啓発活動

- ① 啓発冊子「気づきタウン」の活用
- ② 人権啓発フェスティバル等の開催

人権学習会、研修会の開催

担当課

社会教育課

事業内容・
実施状況等

- (1)地区別人権学習会
身近な生活の場において、解決すべき人権問題があることに気づき、部落差別をはじめとしたさまざまな人権問題の解決に向けた学習活動を実施した。
- (2)人権学習講座
差別解消三法の施行により、教育・啓発が地方公共団体の責務となっていることから、法律の内容を知り、私たちにできることを考える講座やSNS等によるインターネット上での人権侵害の被害者にも加害者にもならないための講座を実施した。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 人権問題が多様化、複雑化している中、人権に関する正しい理解と認識を深めるために「気づこう！まなぼう！ともに歩こう！」をスローガンに、身近な人権問題に気づくことから始められるように人権学習会を実施した。
地区別学習会では、令和2年度は、「多文化共生」を重点テーマとし、DVD「サラマット」を活用して人権問題の認識を深めた。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、偏見や差別について、マスコミ等で放送されている問題を取り上げ、偏見や差別解消に取り組んだ。差別解消三法の施行や、急激な情報化社会の進化による新たな課題に取り組むために、市職員研修をはじめとする人権研修会を実施し、法律の理解やSNS等の差別事象の現状を理解し、対応の必要性を学んだ。

【課題】 市民の意識の中には、依然として人権学習は難しい、堅苦しいといった意識がある。人権研修会においては、市民に身近な話題を提供し、自分たちに何ができるかを考え、行動を促すことが必要である。
新型コロナウイルス感染拡大防止により、ほとんどの学習会が中止されたため、従来の学習会の方法から新たな学習会の方法を検討する必要がある。
新型コロナウイルス感染拡大による不安から広がる偏見や差別などが顕在化している。また、インターネット上の差別が拡大している現状があるため、幅広い年齢層への研修を継続的に実施しなければならない。



市人権教育研究協議会との連携

担当課	学校教育課・社会教育課
事業内容・実施状況等	学校教育課と南あわじ市人権教育研究協議会(以下、南人教)が連携して、南あわじ市で育った子ども達が、確かな人権意識をもち、毅然と行動できる人間として社会に出ていくことができるように、小学校1年生から中学校3年生まで、すべての学校が共通したプログラムのもと教育活動を展開する「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」を実施した。また、南あわじ市人権教育研究協議会と連携した会議や研修会等に小中学校の教職員が参加して研修を深めた。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」の授業研究会について、小学校1、2年生を倭文小学校で、小学校3、4年生を榎列小学校で、小学校5、6年生を福良小学校で、中学校1から3年生を三原中学校で実施した。コロナ禍での実施となり、参加者の規模は縮小したが、南あわじ市人権教育研究協議会と連携した研修会や講演会によって教材研究や指導案検討が充実したものとなった。コロナ禍でなければ、幼こ保が小学校低学年の授業参観を、小学校高学年が中学校の授業参観を、中学校が小学校高学年の授業参観を、高校が中学校の授業参観をし、連携を図っている。また、令和2年度は兵庫県人権教育研究大会淡路地区大会の講演会がオンラインになったり、実践発表が紙面発表になったりとコロナ禍の中で可能な形態での参加となった。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症に起因する人権侵害、スマートフォンなどによるインターネット上における人権侵害などの新たな人権課題の解決に向け、「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」をブラッシュアップしながら小中学校と南あわじ市人権教育研究協議会との連携をさらに深め、教育活動を展開していく必要がある。また、兵庫県人権教育研究大会淡路地区大会等の研究大会で学んだことを、市内でさらに周知していく工夫も必要である。</p>

啓発冊子「気づきタウン」の活用

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	人権問題が多様化、複雑化している現代社会において、人権に関する正しい理解と認識を深めるために、身近な人権問題に気づくことから始める冊子「気づきタウン」を活用して啓発をおこなう。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度は、項目に高齢者問題、性的指向・性自認、感染症差別、SDGsを追加し、市民が手に取り、読みやすい冊子となるよう改訂した。</p> <p>【課題】 人権学習会や各種イベント等で配布し、より多くの市民に読んでいただけるような工夫改善が必要である。今後、学校教育課や関係機関と協議し、小中学校の教材としての活用も検討する。</p>



基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

人権啓発フェスティバル等の開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	人と人との温かくふれあい、つながりの輪を広めることを目的に、8月の人権文化をすすめる県民運動推進強調月間、12月の人権週間に合わせ、人権フェスティバルを開催し、啓発活動を推進した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 8月の人権文化をすすめる県民運動推進強調月間にあわせて、じんけんサマーフェスティバルを開催し、元筆談ホステスの斉藤りえさん、津軽三味線ユニット来世楽さんを講師に招き講演会や津軽三味線演奏などを行った。また、12月の人権週間中の人権フェスティバルでは人権作文の表彰式と代表者による朗読を行い、子ども達の作文を通じて、多様な人権文化を学ぶきっかけを作った。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来の方法と違った形での運営となり、じんけんサマーフェスティバルは、オンライン講演会、12月は、子どもの発表者の制限等を行うなどの対策をとって実施した。</p> <p>【課題】 人権文化をすすめるまちづくりを推進するためには、継続的な啓発事業が必要である。</p> <p>フェスティバルは、身近な話題で人権問題に向き合えるように工夫し、一定の成果を得ている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、分散型オンライン形式による新たな講演会スタイルが出来上がっており、フェスティバルを一カ所に集中して実施しなくとも、参加者が気軽に参加できる方法を検討する必要がある。</p>



基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向1 主体的に生きるための学びと場の充実

基本的方向2 伝統文化(芸術)の伝承と発展

基本的方向3 スポーツに親しむ環境づくり

基本的方向1 主体的に生きるための学びと場の充実

【重点目標】

【主な取組】

ア 学びの充実

- ① アフタースクール事業 ★
- ② 夢プロジェクト
- ③ 淡路三原高等学校魅力づくり支援事業

イ 社会教育施設の充実

- ① 社会教育施設の整備
- ② 展覧会事業や関連事業の開催
- ③ 資料の保存、管理
- ④ 図書館資料の充実

アフタースクール事業

担当課

体育青少年課

事業内容・
実施状況等

放課後の時間において、子どもが自ら考え主体的に行動し、判断できる力やコミュニケーション能力の向上、ふるさとをよりよく知り、誇りに思う心を育てることを目的に、放課後児童クラブ(学童保育)と放課後子ども教室の両事業を融合したアフタースクール事業を実施。安心安全な環境を確保するとともに、「まちの先生」といった地域の人材を活用しながら、遊びの中に学習・体験・スポーツ・文化等の各種体験プログラムを取り入れることで、自由な空間の中で子ども達自身が自ら選択し、興味・関心や夢を持ち、なりたい自分を見つけることができる居場所を提供し、「学ぶ楽しさ日本一」の実現を目指す。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 新型コロナウイルス感染症の影響により4月、5月と小学校が休校となったため、休校中は、プログラムの実施を縮小したが、6月以降は感染予防対策を徹底した上で、プログラムを実施し、学ぶ楽しさを感じるきっかけづくりを提供した。モデル校のアフタースクール八木に加え、広田・湊においても八木同様に学童保育利用児童へ将棋やダンス、書道などの体験プログラムの充実を図った。八木においては、工作や体育館遊びに加え、講師によるプログラミングやダンス、ウクレレ、英語などの継続した体験プログラムを実施し、日々のプログラムの充実を図ることができた。また、プログラムの実施において、カゴメやスミセイ、ソニー、アシックス等の企業プログラムのほか、地域の方を講師とした「まちの先生」の募集を行い、各拠点において、まちの先生によるプログラムを実施した。さらに、昨年度に引き続き、非営利特定法人(放課後NPOアフタースクール)に運営支援を委託し、スタッフの人材育成、プログラムの発掘、企業プログラムの紹介や実施補助などのサポートもあり、今後の事業拡大に向けての準備や体制づくりに努めた。

比較	令和元年度	令和2年度	増減
プログラム総開催数	73回	342回	↑269回
のべ参加人数	2,431人	5,984人	↑3,553人

【課題】 事業拡大に向けて、体験会の実施や活動紹介といった外部への周知が必要。また、多様な活動に対応できるスタッフの人材確保及び人材育成のため、研修の機会を多く設ける必要がある。

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向1 主体的に生きるための学びの場の充実



あ



夢プロジェクト

21～22ページにも記載

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	<p>小中学生を対象に、著名なスポーツ選手・文化人等を講師として招き、スポーツや文化の魅力や楽しさ、努力することの大切さを感じてもらうとともに、また友達を大切にする心を育み、大きな夢を持って今後の活動と豊かな生活を送ってもらうことを目的に実施した。</p> <p>(1)派遣学校 中学校 1校(沼島中) ※西淡中・南淡中は中止 小学校 4校(志知小・榎列小・八木小・市小)</p> <p>(2)講師 陸上 秋本真吾、鷲野哲平 ボーカルグループ 大石学、中井貴弘、宮本真人、長宗功 裁 アナウンサー 前田紗希 陸上 小林祐梨子 ビーチバレー 村上礼華</p> <p>(3)特別企画 「コロナに負けるなプロジェクト！」 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で休校となったことにより、ストレスを感じ、心配や不安な気持ちの子ども達に、少しでも元気に家で過ごしてもらうため、これまでの「夢プロジェクト」の講師の方々に、応援メッセージを依頼したくさんのエールが届き、市HPやフェイスブック等のSNSで配信した。また講師からは運動不足を解消するための自宅でもできるストレッチなどの映像も届けられた。</p> <p>〔協力者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.平野早矢香(元全日本代表卓球選手) 2.新島卓矢(元全日本代表体操選手) 3.小林祐梨子(元全日本代表陸上選手) 4.山本隆弘(元全日本代表男子バレーボール選手) 5.三村奈々恵(日本を代表するマリンバ奏者) 6.中橋敏彦(日本を代表する和太鼓奏者) 7.Cooley High Harmony(歌手、ボーカルグループ) 8.松浦宏治(元プロサッカー選手) ※南あわじ市出身 9.木場昌雄(元プロサッカー選手) ※南あわじ市出身 10.興津大三(元プロサッカー選手) ※南あわじ市出身 11.浦瀬泰司(元柔道選手) ※南あわじ市出身 12.秋本真吾(元陸上競技選手) 13.武田航平(俳優、声優、ファッションモデル、歌手) 14.マック鈴木(元メジャーリーガー/元プロ野球選手) 15.佐伯美香(元全日本代表バレーボール/ビーチバレーボール選手) 16.伴晃生(プロバスケットボール選手) 17.加地亮(元全日本代表サッカー選手) ※南あわじ市出身 18.樋口みさと(ダンスチーム Some OL') 19.梅花女子大学チアリーディング部レイダース 20.早稲田摂陵高等学校ウインドバンド部 21.田原のぞみ(元プロサッカー選手) ※南あわじ市出身 22.小錦八十吉(元大相撲力士) 小錦千絵(フラダンサー・歌手)
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小学校4校と中学校1校に対し、著名なスポーツ選手・文化人を講師として派遣した。学校からは、講演での印象的で勇気づけられる言葉や迫力のある実技を見てその刺激を受け、子ども達が将来の夢に向かって前向きに取り組もうとする良いきっかけになったなどの感想があった。また子ども達も「あきらめずにがんばる。」「コツコツと努力してがんばる。」などの感想もあり、夢プロジェクトとして子ども達の豊かな心を育む良い機会を提供できた。西淡中学校と南淡中学校は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止となった。</p> <p>またこれまで協力いただいたスポーツ選手や文化人からの応援メッセージで子ども達を含め多くの市民が勇気づけられた。</p> <p>【課題】 学校や子ども達のニーズに応じた講師を限られた予算内で依頼することや学校との日程調整等に苦慮する。</p>



榎列小学校



志知小学校



市小学校



八木小学校



沼島中学校



コロナに負けるなプロジェクト！

淡路三原高等学校魅力づくり支援事業

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	淡路三原高等学校においては、「行きたい・行かせたい・行ってよかった淡路三原」をキャッチフレーズにさまざまな魅力アップ事業に取り組んでいる。南あわじ市及び市内小中学校との連携強化やふるさと貢献活動など、学校を超えて地域の発展とともに学校の魅力をアップさせようとする姿勢を市としても評価しており、淡路三原高等学校の魅力アップに対する取組を支援する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度は、ICTを活用した自己学習の習慣の確立等を目指し、ICT機器整備等を計画していたが、高校でのGIGAスクール構想により対応することになったため実施を見送った。</p> <p>【課題】 令和3年3月23日に南あわじ市と国立淡路青少年交流の家、淡路景観園芸学校、淡路三原高等学校の4者で、小中高生が自分のふるさとについて学ぶ機会の充実を図るとともに、将来の南あわじ市の地域創生を担う人材の育成を目指し、「南あわじ市の地域創生にかかる包括連携協定」を締結した。包括連携協定に基づく活動との連携も視野に入れながら、淡路三原高等学校と協議し、必要な支援を行っていきたい。</p>

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向1 主体的に生きるための学びの場の充実

社会教育施設の整備

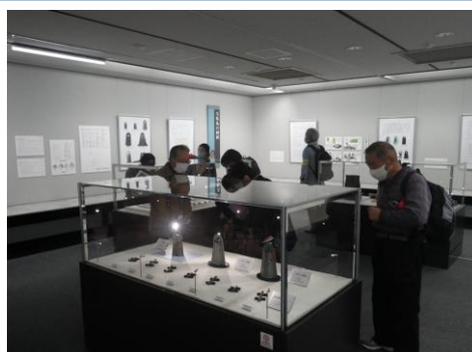
担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市内の社会教育施設の長寿命化を含めた計画的かつ効果的に、公共施設等総合管理計画に基づいた個別施設管理計画を策定し、各施設の修繕等を実施しながら維持管理を行う。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 個別施設整備計画を策定した。 市立図書館特定天井等改修工事を令和3年度に実施するために、実施設計を行った。</p> <p>【課題】 個別施設整備計画を策定したが、すべての施設が老朽化しており、いつ修繕が必要になるかわからない状況であり、今後施設の長寿命化を見据え、トータル的な施設整備計画を考える必要がある。</p>

展覧会事業や関連事業の開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>美術館では、松帆銅鐸に関連した特別展や郷土の歴史遺産を活用した展示、優れた美術品等の展覧会を計画的に企画し開催する。</p> <p>また、松帆銅鐸の常設展示に伴い、青銅器の鑄造体験や消しゴム作り等体験型ワークショップやVR(仮想現実)コンテンツを活用し、幅広い世代が楽しみながら学習できる機会を充実させる。</p> <p>資料館では、淡路人形浄瑠璃の展示を基本として、コアカリキュラムに対応し、小中学生にあわせた内容や淡路人形浄瑠璃後継者団体の活動等の企画展を開催する。また、故鶴澤友路師匠に関する資料や郷土にゆかりのある書画等の展覧会を企画し、幅広い世代が学ぶことのできる事業を展開する。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 美術館では、保存処理を終えた松帆銅鐸や文化財資料の常設展示室が2階にオープンしたことによって、歴史に関心のある今までと異なった客層が増加した。また、多彩なワークショップを開催することができた。</p> <p>淡路人形浄瑠璃450年記念展、日本書紀1300年展、淡路人形名場面の展示替えを2回と資料館の開館30周年の記念としておこなうことで、淡路人形浄瑠璃の啓発活動と郷土への誇りを持てる展示をすることができた。</p> <p>【課題】 美術館では、今まで2階展示室で絵画の特別展を行っていたが、松帆銅鐸展示室に改修したため、絵画の特別展を開催することが厳しくなった。</p> <p>資料館では、コロナ禍により島外及び地元からの集客を思うように図れなかったため、今後は展示のパンフレットを作成して広報活動にも力を入れる必要がある。</p>

資料の保存、管理

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	美術館では、故直原玉青画伯に関する資料及び美術資料並びに貴重な文化財資料の保存管理を行う。 資料館では、淡路人形浄瑠璃に関する資料及び貴重な郷土資料の保存管理を行う。 文書及び写真資料のデジタル化等の新しい手法についても研究していく。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 美術館では、故直原玉青画伯の作品の寄附申し出があり、新たに6点が所蔵品として加わった。また、文化財資料についても、展示公開しながら、管理を行うことができた。資料館では、収蔵品害虫駆除・防カビ殺菌のために燻蒸実施することができた。寄贈と寄託の床本の整理と故鶴澤友路師匠の寄託資料(床本・レコード・カセットテープ・オープンリール・CD・ビデオ・本・番付表・パンフレットなど)の調査を大阪市立大学の先生により、令和3年度の目録作成に向け準備を進めている。</p> <p>【課題】 美術館では、収蔵庫の空きスペースが少ないため、今後寄贈や寄附があった場合に、作品の大きさによっては受け入れが困難である。重要文化財も展示できる公開承認施設となるため、環境を整える。 資料館では、寄贈・寄託の資料の量が多く、データ化できずにいたが、今後は友路師匠の音源などをデータ化し、淡路人形座や後継者団体の部員の稽古への活用や、小中学校におけるコアカリキュラムの授業教材としての活用も検討したい。</p>



図書館資料の充実

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市立図書館と中央・広田・湊公民館図書室の4箇所で連携し、蔵書の充実や利用者へのサービス向上に努める。効率的な施設の管理運営を行い、一般図書や幼児・児童図書、中高生向けのおすすめ図書コーナーの充実、ボランティアによる絵本の読み聞かせ・ブックスタート事業を行い、図書にふれあう機会の増加を図る。また、離島小中学校に定期的に配本を行い、読書に接する機会を提供する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 蔵書数313,849冊で微増。しかし、新型コロナウイルス感染症により年間貸出冊数は147,326冊、貸出利用人数は延べ36,286人と前年度に比べ約3割減であった。コロナ禍でも感染防止を徹底しながら利用制限を最小限度とし、利用者サービスの低下を防ぐことができた。 読み聞かせ会、おはなし会やブックスタート事業も可能な限り実施した。さらに市民交流センターでの図書貸出、返却サービスも開始し、市民がさらに幅広く読書に親しむ機会を提供することができた。図書館が読書推進の拠点として機能するよう今後も努めていく。</p> <p>【課題】 図書館サービスの根幹である蔵書の収集・保存・提供を充実するため、市民の学習活動の支援や読書活動に役立つ資料の収集、選書を検討し、利用者へのサービスが低下しないように配慮する必要がある。 また、図書館、図書室のより一層の連携強化を図り、多様性の求められる時代に対応していきたい。</p>

基本的方向2 伝統文化(芸術)の伝承と発展

【重点目標】

【主な取組】

ア 体験を通して学ぶ伝統文化(芸術)の伝承と発展

- ① 子ども伝統芸能発表会
- ② 淡路人形浄瑠璃の保存伝承と振興
- ③ 南あわじ音楽祭

イ 文化財の保存と活用

- ① 歴史文化遺産の保存、整備と活用
- ② 淡路島古代フェスティバルの開催
- ③ 松帆銅鐸の調査研究、活用



子ども伝統芸能発表会

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	伝統文化の継承と市民の関心を深めるために、市内の小学校・各地区の伝統芸能保存団体等の子ども達による発表会を実施する。子ども達の郷土の歴史、伝統、文化に対する関心や理解を深めるとともに、それらを尊重する態度や豊かな人間性を育む。また、各小学校・各地域の垣根を越えた子ども達の交流を行い、南あわじ市の伝統文化を守る次世代を育成する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動を自粛している団体があったことと、感染拡大防止の観点から、令和2年度の事業は実施できなかった。</p> <p>【課題】 だんじり唄や民謡などの保存団体は、集まって練習すること自体が難しいという現状である。感染拡大防止のため活動を停止していた団体もあり、現状が続けば伝統芸能への興味・関心が薄れることが懸念される。保存団体の活動への支援のほか、伝統芸能を発信する場や保存団体の交流の場を確保することが課題である。</p>

淡路人形浄瑠璃の保存伝承と振興

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	国指定重要無形民俗文化財「淡路人形浄瑠璃」の保存団体(公財)淡路人形協会への支援を継続するとともに、保存伝承や若い世代の関心を高めるため、兵庫県内の小学生が淡路人形座で鑑賞し、その魅力を体験するために必要な経費の一部を助成する。また、淡路人形浄瑠璃の保存伝承活動を振興するため、人形劇の友・友好都市国際協会(AVIAMA)に加盟の都市間で相互に文化交流を行い、市民の人形浄瑠璃に対する意識の高揚を目指す。また、淡路人形浄瑠璃体験教室事業補助金により、淡路人形浄瑠璃を多くの児童・生徒が鑑賞できる機会を創出した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 淡路人形浄瑠璃体験教室事業では、14団体565名の利用があり、淡路人形浄瑠璃の魅力を発信できたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年比べて2団体540名の減となった。また、人形劇の友・友好都市国際協会(AVIAMA)に加盟の都市間での文化交流はWeb会議で意見交換会を2回行ったのみとなった。</p> <p>【課題】 郷土芸能の保存伝承については、小・中学校等との連携を図りながら、後継者育成に取り組んでいるが、社会体育や文化活動への参加など多様化し、減退傾向にあるとともに、後継者不足・指導者不足といった課題をかかえる団体が増加している。伝統芸能の保存伝承活動のためには、伝統芸能を体験できる機会を増やし、伝統芸能の魅力を周知していく必要がある。また、保存団体間の交流の場を作り、情報交換をする必要がある。</p>

南あわじ音楽祭

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市民の参画により、一流の音楽に触れることができる音楽祭や、音楽をはじめ広く文化活動をしている個人や団体が参加できるイベントを行う。また、第10回音楽祭を目途に、新たな担い手を迎え入れられるよう努める。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度の音楽祭事業は中止となった。実行委員が3月で任期満了となり、11名中10名が継続、1名が退任し、新規で3名が加入したことで「第10回南あわじ音楽祭までに新たな担い手となる新規委員を迎え入れる」という目標は達成できた。</p> <p>【課題】 コロナ禍ではあるが、より多くの市民が音楽に親しめる機会を創出することが課題である。従来の音楽祭事業の形で実施することは難しく、新たな企画の立案・実施が必要である。</p>

歴史文化遺産の保存、整備と活用

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>定期的に、文化財保護審議会を開催し、市内に点在する指定文化財等の適正な保存・保護、また新しい文化財の指定等の審議を行う。</p> <p>慶野松原保存整備委員会において、名勝としての適正な保存管理等を審議し、白砂青松の景観維持に努める。</p> <p>ほ場整備等の開発事業に伴う埋蔵文化財調査を適正に行い、その保護に努める。</p> <p>調査成果については、公民館等での速報展やパンフレット配布により、一般公開し、郷土歴史の学びの場、文化財に触れられる機会を提供する。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 現在まで検討されていた市指定候補11件の内、3件が審査会の慎重な審議により市指定をうけることができた。また国指定名勝慶野松原においては、保存整備計画に基づき、適正な保全を行い、白砂青松の景観維持に努めることができた。文化財調査においては、文化財保護法の基、ほ場整備事業など開発事業に伴い、埋蔵文化財調査を引き続き実施し、適切に発掘調査を完了することができた。また平成30年度、令和元年度に行った埋蔵文化財調査で出土した遺物や写真記録の展示会を開催し、一般の市民に調査成果を公開することができた。</p> <p>【課題】 市内には多数の文化財が存在し、今後、適正な保存管理のため、よりきめ細かな状況把握に努め、計画的な保存・管理対策を講じていく必要がある。</p> <p>市民講座の開催や文化財の活用により、多くの人に文化財の魅力を身近に感じてもらえるような事業を展開していくことが必要である。併せて、市内に点在する淡路島日本遺産の構成文化財を有効活用し、多くの人に魅力を届ける必要がある。</p> <p>また、ほ場整備など開発面積の増加により、出土遺物量が急増しており、資料整理と調査成果の資料作成時間が不足しつつあるため、計画的に業務を行い、保護に努める必要がある。</p>

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向② 伝統文化（芸術）の传承と発展

淡路島古代フェスティバルの開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>松帆銅鐸の発見を機に開催している。今後も幅広い年齢層が楽しめるイベントとして、勾玉作り、ミニチュア青銅器の鋳造体験、バッジ作り、VR体験等のワークショップでの体験を通じ、淡路島の歴史を直接肌で感じてもらえるよう内容の充実を図る。</p> <p>また、歴史によるまちづくり協議会との連携を深め、市民や企業が企画開発した関連グッズの発表・販売等を行う等官民一体となり、広く淡路島を全国にPRする事業として定着させていく。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 開催を予定していたが、緊急事態宣言のためやむを得ず中止となった。実施はできなかったが、キッチンカーや移動販売車を運営する事業者の実態が把握できたので、イベント形態の工夫の参考になり、次への展開ができるようになった。また、島内のハンドメイド雑貨の方々も新たに新店いただくなど啓発事業にも広がりが見られた。</p> <p>【課題】 協力していただく市民の方々や事業者は増えつつあるが、グッズの販売機会が少なく、販路拡大が喫緊の課題である。また出店や商品の開発に興味のある事業者は見られるものの、確実に取り込めていない。実践セミナー等を通じて、魅力ある商品開発と販路拡大を狙いたい。</p>

松帆銅鐸の調査研究、活用

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>松帆銅鐸の調査研究による成果を、研究機関や専門家等に情報提供し、これまでの銅鐸研究に反映し活用することで、南あわじ市の歴史をひもとく学習活動の機運を高める。</p> <p>令和2年度以降、順次、松帆銅鐸の一般公開に伴う展覧会事業を実施するとともに、今後、淡路島日本遺産とも関連づけながら、市民講座や講演会等により、他地域の銅鐸との比較や弥生時代の青銅器をテーマに展開し、わかりやすい最新の研究成果の普及啓発に努める。</p> <p>銅鐸が多数出土し、淡路島同様の国生みに関わる神話をもつ出雲との「弥生ブロンズネットワーク」や他の銅鐸出土地とのネットワーク形成、青銅器に関するシンポジウム等で古代イベントを行う自治体や団体との交流を促進し、銅鐸を含む青銅器の周知を図っていくと同時に、市内の歴史文化遺産を活用する。</p> <p>銅鐸をはじめとする市内出土の青銅器ミニチュア鋳造体験、消しゴム作り等、子どもから大人まで楽しめるワークショップをさらに充実するとともに、解説やワークショップに関わるボランティア（人材）の育成を図り、市内外で行うイベント等に参加し、学習と体験を通じて、「青銅器といえば南あわじ市」となるよう、青銅器への関心や知識の向上を図る。</p> <p>市内の小中学校と連携し、松帆銅鐸のVRコンテンツ（映像と学習シート等）を各学年の学習段階に対応させながら、教育支援システムを通じ、教育現場で活用できるように整備し、郷土が誇る歴史や文化の学習に役立て、郷土愛の醸成を図る。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 松帆銅鐸調査報告書Ⅰにおいては、売り上げは好調である。また、11月に松帆銅鐸展示室をオープンし、専門知識がなくとも銅鐸や市の歴史への理解の一助になった。</p> <p>また、市HP内に市内歴史文化遺産の検索サイトを構築したことにより、検索者に合った方法で検索、学習することが可能となり、活用しやすくなることで、南あわじ市の歴史の魅力の情報発信を行うことができた。</p> <p>【課題】 特別展関連としてワークショップやイベントを予定していたが、コロナ禍のためほとんど開催できなかった。今後同様の状況になった場合は、これに替わる情報発信を考慮することが必要である。</p>

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生



基本的方向2 伝統文化（芸術）の伝承と発展

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向3

スポーツに親しむ環境づくり

【重点目標】

【主な取組】

ア 生涯スポーツ等の推進

- ① 市民スポーツの振興
- ② 体育協会大会の開催

イ 社会体育施設・設備の環境整備

- ① 温水プール運営事業
- ② スポーツ施設の適正管理
- ③ 学校施設の開放事業

市民スポーツの振興

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	市民スポーツの核となる社会体育施設・学校体育施設の利用を市民に促し、スポーツ活動の活性化を図っている。また、地域スポーツの振興を支えるスポーツ推進委員の研修会（ポッチャ・アジャタ）を開催し、ニュースポーツ体験を各地域で行うなど、市民一人一人が様々な機会を通じて生涯スポーツを実践することにより、健康で、豊かな生活が送れるよう生涯スポーツの振興を図った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 施設利用において、定期的に継続して利用する団体が増えるなど、地域住民にとって身近なスポーツの活動場所として提供することができた。また新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴い、スポーツ活動の機会が例年よりも減少したが、施設の団体利用が中止の場合であっても、子ども達の遊び場として小学校の校庭開放や、また散歩や個人練習等で社会体育施設のグラウンドなどを利用できるように促した。</p> <p>【課題】 多様なスポーツのニーズに応えるとともに、市民の誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設においても安心・安全に活動が行える環境に整備し、利便性を図るとともに、利用者数の増加や維持管理コストの低減を目指す。</p>

体育協会大会の開催

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、主催事業の多くが中止となる中、種目協会主管の大会8回、地区主管の事業1回を開催した。市民の運動する機会を提供するため新たにスポーツ体験会（ペタンク）を開催した。さらに個人や団体で気軽にスポーツに取り組めるきっかけと施設利用を促進することを目的に市体育協会のスポーツ備品の無料貸出事業に新たに取り組んだ。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 スポーツ体験会には20名の参加があり、種目協会の競技人口の増加に繋げる普及啓発となり、市民がスポーツに対する関心を高める機会となった。またスポーツ備品貸出事業は3か月で90件の利用があり、スポーツ施設の利用促進に繋げることができた。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を行いながら、市民へのスポーツ普及活動を実施する必要がある。各種目協会や地域のニーズを把握し、また事業の精査や事務の効率化を目指し運営方法の改善についても検討する。</p>

温水プール運営事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	平成30年度から5年間、(株)エヌ・エス・アイを指定管理者として引き続き管理運営委託をしている。自主事業として、幼児から大人までを対象とした水泳教室を開設し、市民の体力向上および健康促進を図り、選手の育成や競技力向上にも取り組み全国大会出場者も輩出している。また施設の防水工事、照明器具(LED)取替工事を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 建設から25年以上経過し、施設および設備の老朽化が進行する中、施設の防水工事等の各種修繕工事を実施したことで、利用者にとって安心・安全な施設づくりを目指すことができた。</p> <p>【課題】 プールの水温を調節する設備であるヒートポンプ温水機器を順次更新している。また、6基のうち未更新の4基については耐用年数を経過しており、故障した場合、施設の運営に大きな支障をきたしてしまうため、他の設備も含めて計画的に整備を進める必要がある。</p>

スポーツ施設の適正管理

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	スポーツ施設の維持管理について、優先順位をつけて計画的に整備を進めることができている。西淡社会教育センター玄関前タイル防滑工事、文化体育館のサブアリーナ空調設備新設工事等を実施した。またスポーツ施設について、利用実態に応じた施設の適正配置を行うため、各個別施設の整備計画を策定した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 施設及び設備の老朽化に伴い、緊急性の高い案件から順に計画的に修繕工事を実施することができた。</p> <p>【課題】 市内スポーツ施設の個別施設計画をもとに修繕等を実施する。また、人口減少・少子化をはじめとする社会情勢の変化を考慮して、計画の順を変更するなど適正な維持管理を行う必要がある。</p>

学校施設の開放事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	学校教育に支障がない範囲で市内の学校施設(体育館・グラウンド)を開放し、市民が身近でスポーツ活動を行う場を提供している。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を実施しながら、利用者が安心・安全に施設を利用することができる環境を整備した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、各学校施設に消毒液の設置や名簿管理等の利用条件の遵守を徹底し、利用者が安心・安全に利用することができるようにした。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、学校施設の利用中止や利用時間の短縮などの対応を図ったため、利用者数が減少となった。引き続き感染予防対策を行い、市民の健康増進を図りつつ学校施設の利用促進を行う必要がある。</p>

評価委員の意見

南あわじ市教育に関する事務の点検及び評価委員会委員

前川 美津子

川西 六生

山崎 泰秀

全体を通して

- 「第3期南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）」では、基本理念「学ぶ楽しさ日本一」を軸として、3つの基本方針、15の基本的方向、33の重点目標を掲げ、体系表を作成しているが、これを見ればどのような事業をどのような目的で実施しているかが一目瞭然であり、非常にわかりやすい。
これらの理念・方向性・目標を教職員や教育関係者が本当に理解し、教育現場や地域社会へどのように影響を与え実践していくかということが大事である。

学校教育について

- 子ども達が疑問に感じたことを粘り強く探求していく心を育てるためには、教職員が子どもの「なぜ」を見極め、共感していくことである。それにより学校は子どもの活気であふれる。その活気を作り出すきっかけを育て見守る教職員の育成が今後の課題であると感じる。
- 「読解力の向上」「読書習慣づくり」事業では、学校で読書する時間を設け、読書する楽しさを感じさせる工夫を行い、読解力をつけることにより、話す、考えるという言語能力の向上を図っている。現在の子供達は、学校外では塾や社会体育に忙しく、本よりもゲームに魅力を感じ、家庭では本に触れる機会が少なくなっているように思われる。引き続き、学校では工夫して読書を促すとともに、家庭での読書をさらに浸透させる取組を期待する。
- A L T ・ S T を活用した外国語の授業では、本市では7年前から、担任・A L T ・ S T の3人体制での外国語教育を実践してきた実績があり、ネイティブスピーカーの英語に触れることによって、子ども達の発音も格段に変わってきている。また、複数の先生が授業に入ることにより、子どもだけでなく先生同士も刺激を受け合っている。
そのような経緯があるため、令和2年度から外国語が教科となってもスムーズに授業を進めていると思われるが、今後も子ども達が英語に対する苦手意識を持つことなく、より効果をあげられる取組を期待する。

- プログラミング教育については、実際に授業として実施する場合、プログラミング的思考を生かされるように基礎から一人一人の子どもに寄り添って進められたい。
また、授業準備やパソコンの操作等、教職員の負担も大きくなるため、情報機器が得意な教員を各学校に配置し、校内で研修や相談ができる体制の構築について検討されたい。
- 兵庫県版道徳教育副読本、副読本「ふるさと淡路島」「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用や環境体験学習は、地域のすばらしさを体感できる取組であるため、今後も引き続き実施されたい。
- 食育推進事業は、子どもが楽しみにしている学校給食に地場食材を取り入れた素晴らしい事業である。食べることは人間の体を形成する基本でもあるため、子どもの健康増進はもちろん、家庭や地域への啓発を含めて進められたい。
- 特別支援教育の推進では、個別の教育支援計画、関係機関との連携、あわじ教育相談等の取組により、支援が必要な子どもや保護者に対応する教職員のスキルが向上し、子どもが社会性を身につけていく一助となるとともに保護者が相談できる場として確立している。
年々、対象児童生徒が増えてきており、いかに早く対応できるかにより、子どもの発達にも影響が出てくるため、関係機関、専門家、教職員、家庭等と連携し、子どものより良い成長につなげられたい。
- 基礎的な人格形成がなされる幼児期の教育については、遊びながら学びに繋がる体験を促す活動を工夫したり、幼稚園・こども園・保育所（園）と小学校との円滑な接続を目指した連携を行ったりと積極的な取組が行われている。さらに教育委員会と子育てゆめるん課との垣根を超えた連携を求める。
また、幼児期の本との出会いの場を作り出すための様々な試みについては、今後の展開を期待する。
- 南あわじ市は、南海トラフ巨大地震に対する備えが欠かせない地域であり、持続した防災教育は必要不可欠である。地域を巻き込んだ取組となることを求める。
- 南あわじ市サテライト講座は、専門的知識を持つ大学教授から専門性の高い貴重な講義を出張することなく多くの教職員が受けられる機会であり、実践的な指導力を向上させる重要な講座だと考える。
時代の変化や教職員自身のキャリアステージに応じて、求められる資質能力を高めるために必要な研修を受講できる体制を整えることにより、さらに充実した研修になるのではないかと考える。

- いじめ防止及び不登校児童生徒への支援については、教職員の資質能力とも深く関係しており、いじめや不登校事案への対処に日々悩んだり、これらの事案を関係機関へ安易に任せっきりにしてしまう等、教職員の負担や対応方法が懸念される。
コロナ禍においては、いじめや不登校事案について様々な関係者が集まって協議する、先輩教職員から教えを請う、保護者と密接に連携する等の機会がなく、そのため人間関係を構築することが困難になっていると推察する。各学校において、経験の長い教職員から学べる機会や相談できる環境を作り出していくことが必要ではないか。
- 適応教室が市内に4か所設置されているのは素晴らしいことである。子ども達は近くの教室へ通うことができ、子ども達の実態に即した形で運営されており教室の重要性は非常に高い。今後も事業を縮小することなく継続されたい。

社会教育について

- 家庭と地域による学校と連携した教育の推進では、人口が減少する一方で、世帯数は増え核家族化が進んでいる。コロナ禍による経済的格差も加速し、地域住民の不安は増すばかりである。子どもが家庭や地域で安心して生活できる環境づくりが安全な地域づくりにつながると考える。一方、大人の人権感覚や道徳感覚が希薄になり、自分の権利を強く主張した者がより利益を得る社会へ向かうことを懸念する。地域の方々への人権啓発を進め、だれもが住みやすいまちづくりを目指していただきたい。
- 放課後児童健全育成事業（学童保育）については、年々利用者が増加している。令和2年度当初は、新型コロナウイルス感染症により学校が臨時休校になり、働く親世代にとっては学童保育の実施は子どもの安全な居場所づくりとして欠かせないものになっている。今後もアフタースクールも含め、放課後の子どもの健全育成のため、より充実して事業を実施していく必要がある。
- 夢プロジェクトでは、日本を代表する著名人がその努力や思いを子ども達に直接話しかけ、体験を感じてもらう貴重な取組である。子ども達に及ぼす影響も大きい非常にすばらしい事業であるため、引き続き実施されたい。
- 松帆銅鐸の調査研究、活用については、松帆銅鐸が歴史的な大発見であり、南あわじ市が誇る文化財であるにもかかわらず、その貴重さがまだまだ地域の人々に十分伝わっていないと感じる。常設展示以外にも、レプリカ、紙芝居、漫画、物語等を活用した学校での啓発や解説など、効果的な取組によりふるさとのすばらしさを認識してもらおう事業となることを今後期待する。
- 令和2年度を振り返ってみると、伝統芸能をはじめとして地域住民の文化的な活動がコロナ禍により中止や縮小に相次ぎ追い込まれ、活動の流れがストップしてしまったと感じる。
子どもは体験から多くのことを学んでいくが、その体験が縮小され楽しみが奪われ、子どもも大人もストレスの中で生活した一年であった。この状況に風穴を開けるような取組が必要だと感じている。

令和2年度は教育改革の年であり、10年に一度改定される新学習指導要領が小学校で実施され、南あわじ市では第3期教育振興計画が作成された。その節目の年に、新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な事業が中止や縮小せざるを得ない状況になり、指針を示す教育委員会や現場においても対応の転換を迫られた。

このようなコロナ禍の状況や対応を記録として残し、今後に活かしていくことが大事ではないだろうか。また、危機管理意識を持ち、代替案を複数用意しておくことが必要とされる時代を迎えている。

学び続ける子どもを育てるという生涯教育的観点から見ると、上杉鷹山や山本五十六の「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」という言葉にあるように、教える人、させてみる人、それを認めてほめる人の存在が重要である。

南あわじ市においても、「学ぶ楽しさ日本一」の基本理念のもと、教育において「ほめること」を大切にしている。これにより、自己肯定感を高め、子ども達の主体的な学びを引き出し、成長を促していくところは、先人の言葉にも通ずるところがある。

また、ガンジーの「明日死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい。」の言葉は、コロナ禍を乗り越えようとしている今、生き方や学び続けることの大切さを実感させるものである。

学校での学びが未来につながるように、子ども達の学びは進化していく。教育課程の基準である新学習指導要領の目標を多くの方々と共有し、一人一人の子どもが生きる力を育み、幸せを感じ、学校が楽しいという声が聞こえてくることを願っている。